

(2) 在ソ日本領事館閉鎖問題

151 昭和12年5月14日 佐藤外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

在本邦ソ連大使館より在オデッサおよび在  
ヴォシビルスク両日本領事館を閉鎖要求し口  
上書手交について

別電 昭和十二年五月十四日發佐藤外務大臣より在

ソ連邦重光大使宛第一八六号

日ソ領事館の同数主義を唱えた右口上書要旨

本省 5月14日後6時10分發

第一八五號

十一日「ライヴイド」參事官堀内次官ヲ來訪シ別電第一八  
六號ノ趣旨ノ口上書ヲ手交スルト共ニ「オデッサ」及「ノ  
ヴォ」領事館ハ在留民モ日本船舶ノ寄航モナク設置ノ要ナ  
シト認ムトテ其ノ閉鎖ヲ期待スル意味合ヲ述ヘタリ依テ次  
官ヨリ領事館數均等ノ取極ナルモノニ付テハ承知セサルニ  
付茲ニ何等意見ヲ述ヘ得サルカ差當リノ感想トシテハ(一)從  
來一ノ差アリタル時ハ問題ニセスニトナリタリトテ問題ニ

スルハ如何ナル譯ナリヤ(二)假ニ双方同數ノ建前トスルモ一  
方ノ都合ニヨリ勝手ニ數ヲ減シ同數ヲ他方ニ強ユルハ公正  
ト云フヘカラス(三)領事館ノ要否ハ之ヲ派遣スル國ノ認定ス  
ヘキ事柄ナリト述ヘタル處「ラ」參事官ハ(一)ニ付テハ差カ  
大トナリ之ヲ甘受シ難キニ至レルモノナリ(二)ニ付テハ唯同  
數ノ建前ナリトノミ述ヘタリ

(別電)

第一八六號

本省 5月14日後6時10分發

日「ソ」領事館ノ實數ハ均等ナラサル處右ハ一九二六年十  
月二十七日附在「ソ」日本大使館通牒ニヨリ確定セラレタ  
ル通同數ナルヘキモノナルカ其差ハ六月一日在京「ソ」總  
領事館ノ閉鎖ニヨリ更ニ大トナリ「ソ」側六、日本側八ト  
ナルヘシ依テ「ソ」政府ハ右ニ付日本政府ノ注意ヲ喚起シ  
日本側カ同日ヨリ在「ソ」領事館數ヲ右協定上ノ義務通是  
正セムコトヲ確信スルモノニシテ日本側カ閉鎖セムトスル  
公館ニ付通知アリ度シ

1 日ソ諸案件交渉

152 昭和12年5月24日 佐藤外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

在オデッサおよび在ノヴォシビルスク両領事館

閉鎖の要求を拒否する旨の口上書發出について

本省 5月24日後7時25分發

第二一〇號

往電第一八五號ニ關シ

二十四日在京「ソ」大使館ニ對シ口上書ヲ以テ左ノ趣旨ヲ

回答シ置キタリ

外務省ハ一九二五年七月三十一日附在「ソ」大使館宛外務

部口上書及同八月四日附右返シ竝ニ右口上書交換ニ至ル經

(編注)

緯ニ對シ「ソ」大使館ノ注意ヲ喚起ス右ハ當初我方カ必要

トセル數ノ領事館ヲ設置セムトシタルニ對シ「ソ」側ハ三

又ハ五個所ヲ提議シ交渉ノ結果九個所ニ取極メタルモノニ

シテ若シ一方カ任意ニ數ヲ減シ他方カ之ニ應スヘキモノト

セハ「ソ」側ハ最初主張セル數迄我方領事館ヲ減少方要求

シ得ルコトトナリ右取極ハ無意義トナルヘク又一九二六年

十月二十七日附在「ソ」大使館口上書ハ取極ノ數ヲ超エテ

設置セサルコトヲ了承セルモノナリ依テ我方ハ領事館現在

數ヲ減少スル理由ヲ認メス且「ソ」側カスル要求ヲナスハ  
兩國ノ正常關係上不可解ニシテ右申出ニハ同意シ得ス尙

「ソ」側カ特定國ニ有スル領事館ヨリモ遙ニ多數ノ當該國  
領事館ヲ「ソ」聯邦内ニ設置セシメ居ル事實ニ對シ「ソ」

大使館ノ注意ヲ喚起ス委細公信

編注 『日本外交文書』大正十四年第一冊第437文書參照。

~~~~~

153 昭和12年6月23日 広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

同數主義に基づき日本側領事館閉鎖を再度求

めるソ連側口上書について

本省 6月23日後2時35分發

第二六二號

往電第一八五號ニ關シ

十五日在京「ソ」大使館ヨリ口上書ヲ以テ五月二十四日附

我方回答ニ對シ大要左ノ通申越シタリ

「ソ」政府ハ一九二五年八月四日附外務部口上書ニヨリ領

事館所在地カ變更セラルルコトアルヘキ旨留保セルカ凡

ル此種ノ變更ハ館數同一ノ原則ニヨルヘキコト言フ俟タス  
 右口上書ノ正確ナル意義ニヨルモ領事館網ノ變更ニ付任意  
 ノ時機ニ日本側ヘ提議シ得ルモノナリ他方領事館ノ設置ハ  
 設置國ト接受國トノ合意ニヨルヘク且之カ設置ニハ在留民  
 又ハ船舶ノ來航ニヨル事務アルヘキ筈ナルカ經驗ニヨレハ  
 「オデツサ」及「ノヴォ」ノ日本領事館ニハスル事務モ保  
 護スヘキ利益モナシ尙「ソ」聯邦ト他國トノ領事館數カ相  
 互ニ均等ナラサル事實アルモ右ハ日「ソ」間ニ關係ナシ依  
 テ「ソ」政府ハ五月十一日ノ本件提議ヲ固執ス  
 滿ヘ轉電セリ

154

昭和12年7月12日

外務省より  
 在本邦ソ連邦大使館宛

二領事館閉鎖再要求に対する日本側口上書

付記 昭和十二年七月二十七日付

右口上書に対するソ連側回答和訳文

歐一普通第三八號

口上書

帝國外務省ハ一九三七年六月十五日附在京「ソヴィエト」

聯邦大使館口上書ヲ受領シ左ノ通回答スルノ光榮ヲ有ス  
 右大使館口上書ニハ領事館問題ニ關スル文書往復ノ當初ヨ  
 リ日「ソ」兩國政府ハ相手國領事館ノ開設ニ同意ヲ與フル  
 モ領事館所在地ハ將來變更セラルルコトアルヘキコトヲ留  
 保シ居リ凡ユル此種ノ變更ノ際兩國政府ノ同意セル領事館  
 同一數ノ原則ヲ考慮ニ入レ且之ヲ遵守スヘキハ言フ俟タサ  
 ル次第ナル旨ヲ記載シアル處右ニ謂フ凡ユル此種ノ變更ト  
 ハ一九二五年七月三十一日附外務人民委員部口上書ノ正確  
 ナル意義ニ據レハ一ノ地ニ在ル領事館ヲ他ノ地ニ移ス場合  
 ヲ指スモノナルコト疑ノ餘地ナク現ニ帝國政府ハ當初尼港  
 ニ開設スルコトニ「ソヴィエト」聯邦政府ノ同意ヲ得タル  
 帝國領事館ヲ「ノヴォシビルスク」ニ設置スルコトニ變更  
 方提議シ一九二六年一月二十七日「ソヴィエト」聯邦政府  
 ノ同意ヲ得タル事實アルハ此適例ニシテ大使館口上書ニア  
 ルカ如ク右留保ニ基キ「ソヴィエト」聯邦政府カ帝國政府  
 ニ對シ領事館配置數ノ變更ヲ任意ノ時機ニ提議シ得ルモノ  
 二非ス  
 大使館口上書ニハ所謂領事館同一數ノ原則ナルモノヲ採用  
 シ且領事館ノ存在ハ之ヲ受クル國家ト之ヲ任命スル國家ト

ノ相互の合意ニヨリテノミアリ得ヘキコトニ對シ帝國外務省ノ注意ヲ喚起スル旨記載シアル處此等ノ點ニ關シテハ日「ソ」兩國間ニ斯ル一般の合意ヲ規定スル通商航海條約又ハ領事條約ナク特ニ一九二五年七月三十一日附在莫斯科帝國大使館宛外務人民委員部口上書及同年八月四日附外務人民委員部宛在莫斯科帝國大使館口上書ニヨリ日「ソ」兩國相互ニ九個所ノ領事館ヲ開設スルコトニ合意成立セリ而シテ「ソヴィエト」聯邦大使館カ本年五月十一日附口上書中ニ於テ帝國政府カ領事館ノ數ノ如何ニ拘ラス常ニ日「ソ」兩國領事館ヲ同一ナラシムル義務ヲ負ヘルモノナルヤノ趣旨ニテ引用シ居レル一九二六年十月二十七日附在莫斯科帝國大使館口上書ハ双方ノ領事館數ヲ九個宛トスルコトトナリタル事情ヲ度外視シテ考慮スルコトヲ得サルモノニシテ右事情ヲ顧ミルニ當初帝國政府ハ其必要トシ且妥當ナリト認メタル數ノ帝國領事館ヲ「ソヴィエト」聯邦内ニ設置セントスル意嚮ヲ有シタルニ對シ「ソヴィエト」聯邦政府ハ相互ニ三個所又ハ五個所ノ領事館ヲ開設スルコトヲ提議シ結局前記一九二五年口上書ノ交換ニヨリ九個ヲ越ヘテハ設置セサル旨ノ合意ニ達シタルモノナリ從テ「ソヴィエト」

聯邦政府カ其一方ノ都合ニヨリ領事館數ヲ減少セシメタル場合帝國政府カ之ニ應シ其在「ソ」領事館配置數ヲ縮少セシムヘキモノナリトセハ「ソヴィエト」聯邦政府ハ其最初希望セル限度迄任意ニ帝國領事館ノ數ヲ減少セシメ得ルコトトナリ右口上書交換ニヨリ取極カ意義ナキコトトナルハ既ニ帝國外務省ノ指摘シタル所ナリ

「ソヴィエト」聯邦大使館ハ又外國領事館ノ存在ノ爲ニハ其管轄區域ニ於テ當該國人民ノ居住又ハ船舶ノ寄港ト必ス關聯セル領事館ノ事務アルコトヲ必要トストノ見解ヲ有スルモ帝國外務省ハ偶々現在ニ於テ定住ヲ許サレ居ル一般帝國臣民ナキカ又ハ寄港スル帝國船舶アラサルコトヲ以テ在「ソ」帝國領事館ノ一、二ヲ閉鎖スル理由ト認ムルコトヲ得ス蓋シ現在當ニ帝國臣民ニシテ在「オデッサ」及「ノヴォシビルスク」帝國領事官ノ管轄區域ヲ旅行スル者アルノミナラス今後帝國船舶ニシテ「オデッサ」港又ハ同地駐在帝國領事官ノ管轄區域内ニ寄港スルモノ全クナキコトヲ豫見スルコトヲ得ス帝國政府トシテハ寧ロ將來日「ソ」兩國ノ通商航海關係ヲ發展セシメンコトヲ冀望スルモノニシテ此點ニ付帝國政府ハ「ソヴィエト」聯邦ニ於テモ異議ナカ

ルヘキヲ信スルモノナレハナリ

將又帝國外務省ハ本年五月二十四日附口上書中ニ「ソヴィエト」聯邦政府カ第三國ニ設置シ居ル其領事館數ヨリモ多數ノ當該國領事館ヲ同聯邦内ニ設置セシメ居ル事例アルコトヲ指摘セルカ右ハ一方ニ於テ「ソヴィエト」聯邦政府カスル事態ヲ許容シナカラ他方日「ソ」兩國間ニ領事館數ヲ相互ニ九個所トスル合意アルニ拘ラス在「ソ」帝國領事館一部ノ閉鎖ヲ期待スルカ如キ正常ナル兩國ノ關係上理解スルニ困難ナル「ソヴィエト」聯邦政府ノ態度ニ對シ大使館ノ注意ヲ喚起シタルモノナリ

以上縷述セル理由ニヨリ帝國政府ハ在「ソ」帝國領事館配置數ヲ減少セントスル「ソヴィエト」聯邦政府ノ期待ニ副フコトヲ得サルモノナリ

昭和十二年七月十二日

(附記)

一九三七年七月二十七日

口上書(邦譯)

在日本國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦大使館ハ「ソ

ヴィエト」政府ノ命ニ依リ本年七月十二日附日本帝國外務省口上書第三八號ニ對スル回答トシテ右口上書ニ引用セラレタル論據ハ信服スヘキモノニシテ且「ソ」政府ノ採レル決定ヲ動搖セシムルニ足ルモノト認ムルコトヲ得サル旨外務省ニ通知スルノ光榮ヲ有ス

「ソヴィエト」政府ハ曩ニ同政府ノ引用セル一切ノ論議ヲ繰リ返ヘスコトヲ望マスシテ同政府ノ見解ヲ簡單ニ「レジュメ」スルコトヲ本官ニ命セリ其ノ見解ハ左ニ歸著ス

一、領事館ノ相互的數ハ永久ニ確定セラレタルモノト見做スコトヲ得ス又政府間ニ協定セラレタル領事館網ニ變更ヲ加フルノ權利ハ該領事館網ヲ縮少スル權利ヲ包含ス

二、「ソ」領事館ノ存在セサルコト及日本國領事館勤務員ノ外日本國臣民ノ存在セサルコト及日本國船舶ノ「オデツサ」港ニ入港セサルコト從テ前掲領事館側ヨリ保護ヲ必要トスヘキ何等カノ日本國ノ利益ノ存在セサルコトハ前掲地點ニ於ケル日本國領事館ノ駐在ヲ現在正當化シ得ヘキ一切ノ事務の考慮ヲ排除ス

三、「ソ」聯邦及日本國間ニ通商條約及領事官協定ノ存在セサルコトハ斯ル協定ノ存在スル場合ニ日本國カ期待スル

ノ權利アルヘキ制度ヨリ有利ナル制度ヲ要求スルノ權利ヲ日本國ニ與フルコトヲ得ス

四、何レカノ國ニ於テモ外國領事館ノ存在ハ之ヲ受クル國家及之ヲ任命スル國家ノ相互的合意ヲ以テノミ生シ得主權國家ノ領域内ニ於テ當該國家ノ意思ニ反シ外國領事館ノ存在スルコトハ許サルヘカラサルコトナリ

五、「ソヴィエト」政府カ他ノ國家ニ關シ領事館數ノ均等主義ヲ維持スルヤノ問題ハ本件ニ關係ヲ有セス況ンヤ該主義ハ一九二六年文書交換ニ於テ明瞭ニ確認セラレ何等最惠國待遇ニ付言及スルトコロナキニ於テヲヤ

「ソヴィエト」政府ハ茲ニ五月十一日附同政府ノ提議ヲ堅持シ日本國政府ヨリ「オデツサ」及「ノヴォシビルスク」領事館廢止ノ時期ニ付最後の回答ヲ遲滯ナク期待ス

日本帝國外務省御中

155

昭和12年7月30日  
在独國武者小路(公共)大使宛(電報)

広田外務大臣より

領事館閉鎖問題に關し独國との協力の可能性

探査方訓令

第一四三號(極秘)

本省 7月30日午後11時24分發

五月十一日在京「ソ」大使館側ヨリ我方ニ對シ日「ソ」領事館數ハ均等ナルヘキ合意アルニ拘ラス相均シカラサルニ至レルニヨリ我方在「ソ」領事館二個所(オデツサ)及「ノヴォシビルスク」ノ閉鎖ヲ期待スル旨申越シ爾來執拗ニ右要望ヲ繰返シ居レルニヨリ我方ハ一九二五年双方領事館ヲ九個所ト定メタル經緯、右數ヲ取極メタルハ之ヲ超エテ設置セサルコトヲ約シタルモノニシテ一方カ任意ニ減少シテ他方ニ之ト同數トナスコトヲ強ユルヲ得サルコト、「オデツサ」等ニハ現在我一般在留民及船舶ノ寄航ナシト雖モ我方ハ將來通商航海ノ發展ヲ期待シ居ルコト、「ソ」側ハ第三國ニ對シ領事館數ノ不均等ヲ許容シ居ルコト(此點御含迄)等ヲ擧ケ其都度「ソ」側ノ主張ヲ反駁シ來レルカ今後モ右方針ヲ持續シ度キ意向ナリ

然ルニ「ソ」側ハ五月下旬以來獨逸ニ對シテモ「オデツサ」及浦潮ノ同國領事館閉鎖方ヲ希望シ最近ハ強硬ニ之ヲ主張シ居ル趣ナルモ獨逸ハ正面ヨリ拒否ノ態度ヲ執リ居ル模様ナル處本件ニ關スル獨逸ノ利害關係ハ全ク我方ト同一ナル

1 日ソ諸案件交渉

へキニヨリ此際獨逸側ニテ同感ナルニ於テハ相提携シテ出來得ル限り「ソ」側ノ要望ヲ拒否スル態度ニ出ツルコト可然ト認メラルルニ付テハ右ニ關スル獨逸側ノ意向乃至希望御確メノ上電報アリ度シ

波蘭へ轉電アリ度シ



156

昭和12年7月30日

広田外務大臣より  
在ポーランド木村(暁臨時代理公使宛)  
(電報)

領事館閉鎖問題に関しポーランドの意向探查

方訓令

本省 7月30日後10時50分發

第二五號(極秘)

本大臣發獨宛電報第一四三號ニ關シ

「ソ」側ハ波蘭ニ對シテモ其在「ソ」領事館二個所ノ閉鎖ヲ希望シ居リ七月上旬在「ソ」七田書記官カ旅行ノ途次落合ヒタル在「キエフ」波蘭總領事ヨリ聞込ミタル處ニ據レハ波蘭ハ「ソ」側ノ好マサル領事館ヲ存續スルモ無益ナリトテ自發的且廢止スヘキ領事館ノ選擇ヲ波蘭ニ任ス條件ノ下ニ在「ソ」領事館二個所(多分「ハリコフ」及「レニン

グラード)ヲ閉鎖スルコトニ決定セル趣ナリ然ルニ我方ハ大部分ノ領事館ヲ極東「ソ」領ニ有シ其他ノ廣大ナル地域ニ僅少ノ領事館ヲ設ケ居ルニ止マリ現在ノ館數ヲ減少スルコトハ到底不可能ナル處前記ノ如キ波蘭側ノ態度ハ直接我方ノ利益ニ影響スル次第ニシテ、我方トシテハ波蘭政府ニ於テモ「ソ」側ニ對シ強硬ナル態度ヲ執ラムコト少クトモ此際易々トシテ「ソ」側ノ要求ヲ容ルルカ如キコトナキ様希望スル次第ナリ就テハ貴官ハ右ノ次第御含ミノ上本問題ニ關スル波蘭側結局ノ意向ソレトナク御確メノ上電報アリ度シ

獨へ轉電アリ度シ



157

昭和12年8月14日

外務省より  
在本邦ソ連邦大使館宛

二領事館の閉鎖を求めたソ連側口上書に対する日本側回答

歐一普通第四二號

口上書

(付箋) 帝國外務省ハ七月二十七日附在京「ソヴィエト」聯邦大使

館口上書ヲ受領シ左ノ通回答スルノ光榮ヲ有ス  
帝國外務省ハ領事館問題ニ關スル「ソヴィエト」聯邦大使  
館ノ主張ニ對シ五月二十四日附及七月十二日附口上書中ニ  
於テ帝國外務省ノ見解ヲ詳細記述シ在「ソ」帝國領事館一  
部ノ閉鎖方ニ關スル「ソヴィエト」聯邦政府ノ期待ニ副フ  
コトヲ得サル旨明カニシタリ

然ルニ「ソヴィエト」聯邦大使館ハ前顯同大使館口上書中  
ニ於テ本問題ニ關スル帝國外務省ノ理由アル主張ニ對シ右  
ハ領事館問題ニ關スル「ソヴィエト」聯邦政府ノ決定ヲ動  
カスニ足ラサルモノナリトテ從來通ノ同大使館ノ主張ヲ繰  
返スニ止メ何等承服スヘキ理由ヲ示スコトナク再ヒ在「ソ」  
帝國領事館一部ノ閉鎖ニ關スル「ソヴィエト」聯邦政府ノ  
提議ヲ反復セリ

大使館口上書ニハ領事館ノ相互數ハ永久ニ確定セラレタル  
モノト見做スコトヲ得スト言ヘルモ帝國政府トシテハ右數  
ヲ減少スルコトヲ強要セラルル理由ヲ解シ得サルモノニシ  
テ同大使館カ一九二五年七月三十一日附在莫斯科帝國大使  
館宛外務人民委員部口上書及同年八月四日附外務人民委員  
部宛在莫斯科帝國大使館口上書ニヨリ領事館設置個所ニ關

シ日「ソ」兩國間ニ取極メラレタル所ヲ根據トシテ右取極  
カ各當事國ニ對シ自國ノ都合ニ依リ領事館數ヲ減少スル場  
合相手國ニ同様ノ減少ヲ要求シ得ル權利ヲ與フルモノナル  
ヤニ論スルハ全然不當ナリ

將又帝國外務省ハ偶々特定ノ地域ニ在留スル一般帝國臣民  
ナキカ又ハ寄航スル船舶ナキコトヲ以テ既設ノ帝國領事館  
ヲ閉鎖スル理由トナスコトヲ得ス右ハ現ニ帝國臣民ニシテ  
斯ル地域ヲ旅行スル者アルノミナラス帝國政府カ現在ノ日  
「ソ」兩國ノ通商航海關係ニ満足スルモノニ非スシテ將來  
スル關係ヲ伸長セシメ今後帝國船舶ニシテ「オデツサ」港  
又ハ同地駐在帝國領事官ノ管轄區域内ニ寄港スルモノアル  
ニ至ラムコトヲ希望スルニ因ルモノニシテ帝國政府トシテ  
ハ在「オデツサ」及「ノヴォシビルスク」帝國領事館ヲ存  
置シ度キ意嚮ヲ變更スル理由ヲ見出ササルナリ  
尙帝國政府トシテハ本問題ニ付「ソヴィエト」政府ニ對シ  
何等特殊ノ權利ヲ主張スルモノニ非スシテ「ソヴィエト」  
聯邦政府ニヨリ同意セラレ且解釋上疑義ヲ挾ムコトヲ得サ  
ル一九二五年ノ取極ニ基キ在「ソ」帝國領事館ヲ存置セン  
トスルモノニ外ナラス

大使館口上書ニハ再ヒ一九二六年ノ交換文書ヲ引用シアル  
 處右文書ハ五月二十四日帝國外務省口上書ニ記載ノ通一定  
 數ヲ超エテハ領事館ヲ設置セサルヘキコトヲ相互ニ認メタ  
 ルモノニシテ從而前顯一九二五年ノ取極ト同様之ニヨリ一  
 方ノ任意ノ處置ニヨル其領事館數ノ減少ニ伴ヒ他方領事館  
 數モ當然減少セシムヘキモノナリト主張スルノ誤レルハ言  
 ヲ俟タサルナリ

「ソヴイエト」聯邦政府カ第三國ニ設置シ居ル其領事館數  
 ヨリモ多數ナル右國家ノ領事館ヲ「ソヴイエト」聯邦内ニ  
 設置セシメ居ル事實ハ日「ソ」兩國間ノ領事館問題ニ無關  
 係ナルモノニ非ス帝國政府トシテハ「ソヴイエト」聯邦政  
 府カ斯ル事態ヲ許容シナカラ帝國政府ニ對シ其當然設置シ  
 得ル數ニモ達シ居ラサル在「ソ」領事館ニ付一部閉鎖方要  
 求スルカ如キハ友好關係上理解シ得サルモノナルニヨリ右  
 事實ニ對シ帝國外務省ハ依然「ソヴイエト」大使館ノ注意  
 ヲ喚起セサルヲ得ス  
 依テ帝國外務省ハ既ニ盡サレタル論議ニ據リ「ソヴイエト」  
 聯邦政府カ其提議ヲ固執スルコトナカラムコトヲ要望ス

(付箋)

先方ハ要スルニオデツサ、ノヴォニ領事館ヲ閉鎖セシムトシ  
 理屈ヲ考へ出シ居ルモノニ付我方トシテハ言フヘキコトヲ言ヒ  
 盡シ後ハ先方カ事實上右ニ領事館ノ存續ヲ不可能ナラシムルカ  
 如キ種々ノ措置ニ出ツルモ又已ムラエストノ態度ヲ以テ進ムコ  
 トト致度シ



158

昭和12年8月20日

在ソ連邦重光大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

在ノヴォシビルスクおよび在オデツサ兩領事  
 館の職務執行権限を否認し閉鎖を要求すると  
 のソ連側通報について

モスクワ 8月20日後発

本省 8月21日後着

第七七二號(至急)

貴電第四一一號ニ關シ(日蘇領事館數調査問題ニ關スル對  
 蘇第三次回答ノ件)

二十日外務部ヨリ十九日附公文ヲ以テ在「ノボシビルス  
 ク」及「オデツサ」領事館閉鎖問題ニ關スル貴地交渉ノ經

過ヲ詳述シタル上日本側ハ蘇側ノ根據アル妥當ナル要望ノ實行ヲ終決的ニ拒否シ他方蘇側トシテハ本件ヲ至急調整スル必要アルニ依リ已ムヲ得サル措置トシテ來ル九月十五日以後在「ノボシビルスク」及「オデツサ」領事館ニ對シ同地ニ於ケル職務執行ノ權限ヲ否認スルコトニ決定セリ而シテ該決定ハ當該地法官憲ニ通達セルニ付右日本政府ニ傳達スルト共ニ右領事等ニ對シ領事館閉鎖ニ必要ナル指令ヲ與ヘラレ度キ旨申越セリ

「ノヴォ」、哈府、浦潮、「オデツサ」へ轉電セリ

~~~~~

159 昭和12年8月21日 在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

領事館閉鎖をめぐる今後の方針につき詮議の

上結果回示方請訓

モスクワ 8月21日午後發  
本省 8月22日午前着

第七七九號(至急)

往電第七七二號ニ關シ

領事館閉鎖交渉ハ本省ノ確固タル御主張ニ拘ラス今日ノ結

果ニ立至レルカ本件蘇側主張ニ聽從スルニ於テハ他問題ニ付テモ先方ハ益々壓迫的態度ニ出ツヘク(差當リ「オハ」無線電信所問題アリ)思考セラルル處之カ報復手段トシテ彼我領事館ノ全部閉鎖、蘇通商代表部ノ廢止等考慮シ得ヘキモ何レモ漁業及利權事業ト引掛リ是等事業ノ根本問題ニ付何等カ新ナル覺悟出來サル限り實行難アルヤニ存セラル他方本件我方態度ハ早目ニ蘇側ニ知ラシムル必要アルヘキニ付御詮議ノ結果至急御回電請フ

尙我方ノ決定如何ニ拘ラス兩領事館機密文書、電信等ハ九月十五日以前ニ燒却其ノ他安全措施ヲ講シ置クコト肝要ト存セラル

~~~~~

160 昭和12年8月25日 広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

領事館閉鎖要求に關シソ連側の反省を促し穩

便解決を慫慂の上先方意向探查方訓令

本省 8月25日午後9時30分發

第四二六號(極祕、至急)

貴電第七七九號ニ關シ

「ソ」側カ牽強附會ノ理由ヲ以テ問題ノ二領事館ノ閉鎖ヲ強要スルニ至レル態度ハ飽迄反省セシメ度キモ實際問題トシテ九月十五日以後強制的ニ閉鎖ノ已ムナキニ至ルトキハ時局柄著シク我國ノ輿論ヲ刺戟スルモノト豫想セサルヲ得ス且差當リ有效適切ナル報復手段ヲ講スルコトモ不可能ノ實情ナルニ付テハ貴使ハ至急「ソ」政府當局ニ御面會ノ上本件ノ一方的解決ヲ急クノ不當ナル所以ヲ説明セラレ此際兩國々交ノ大局の見地ヨリ穩便解決方ヲ懇懇セラレ「ソ」側ノ出様ニヨリテハ更ニ話合ニ應スル含ミニテ先方ノ意向御探査ノ上電報アリ度シ

161

昭和12年9月1日 在ソ連邦重光大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

ソ連側との合意は困難でありソ連側の取極め  
 違反に抗議の上領事館を閉鎖し別途報復手段  
 を講じるべき旨意見申

別電 昭和十二年九月一日発在ソ連邦重光大使より

広田外務大臣宛第八一四号

日本側抗議に対し方針に変更の余地なしとす

るソ連側応答振りについて

モスクワ 9月1日後発

本省 9月2日前着

第八一三號(至急、極秘)

貴電第四二六號ニ關シ(在「オデツサ」及「ノヴオ」帝國領事館閉鎖問題ニ關スル件)

本件ハ既ニ東京ニ於ケル長期ニ亘ル交渉ノ結果蘇側ヨリ決定的意思表示ヲ爲シ來レルモノナルニ鑑ミ今更蘇側ノ反省ヲ促スコト無益ト思考シタルモ折角御訓令ノ次第モアリ交渉シタル結果ハ別電第八一四號ノ通りニシテ先方通告ヲ我方ニ於テ其ノ儘承諾スルコトニ甘ンスルナラハ兎モ角然ラサル限り合意ニ依ル閉鎖ハ見込ナキコト明瞭トナレリ而モ斯ル措置カ我方ノ面目保持上幾何ノ效果アルヘキヤ頗ル疑問ニ屬ス旁此ノ際ハ協定違反ノ責ヲ蘇側ニ歸セシメ九月十五日限り事實上ノ閉鎖ヲ行フコト最賢明トスヘク之カ實行方法トシテハ蘇側通告ニ對シテハ取極違反ヲ理由トシテ強ク之ヲ反駁抗議スルト共ニ地方的ニハ兩地ノ領事ヨリ取極ヲ無視セル蘇政府ノ一方的措置ノ結果執務不能トナレルニ付全館員ト共ニ暫時其ノ地ヲ引揚クル旨通告シ(閉鎖通告

ニアラス)尙前記當館抗議文寫ヲ添附スルコトト致度シ(外部ニ對シテハ前記ノ趣旨ニ依リ我立場ヲ闡明スルノ要アルコト勿論ナリ)

<sup>2)</sup>尙本件ノミナラス蘇側最近ノ一般態度ヲ冷靜ニ考察スルニ其ノ暴慢ナル措置ハ彼等ノ信スル我方今日ノ窮境ヲ利用セントスルニアルヲ以テ我方ニ於テ下手ニ出ルヨリモ寧ロ確乎タル態度ヲ以テ報復手段ニ出ツルノ外反省ヲ促スノ方法ナシ就テハ差當リ在京「タス」通信員ニ對シ適當ノ理由ヲ與ヘテ(報復ノ形トセス)此ノ際直ニ(遅クモ九月十日以前)通信事務ノ停止ヲ命シ次テ一定期間内ニ國外退去ヲ命スルコト最時宜ニ適スト存ス  
以上至急御詮議ノ上前段ニ付テハ夫々詳細御訓電相成度シ

(別電)

モスクワ 9月1日後發  
本省 9月2日前着

第八一四號(至急)

<sup>1)</sup>四、五日前ヨリ「カズロフスキ」ハ蒙古陸相葬儀等ノ理由ヲ以テ面會ヲ謝絶セルニ依リ廿九日七田ヲシテ蘇側ノ兩

領事館閉鎖ニ關スル一方ノ通告ヲ非トスル我見解ヲ「フエデレンコ」ニ開陳セシメ置キ三十一日往訪ノ西ヨリ「カ」ニ對シ蘇側考慮ノ結果如何ヲ質シタルモ「カ」ハ別ニ述フヘキコトナシト言フ依テ西ヨリ今次通告ニ對シ我方ノ不滿トスル所ハ領事館開設取極ノ解釋等ニ關シ彼我意見不一致ノ點ニ付蘇側カ交渉ニ依リテ調整ヲ圖ルコトナク蘇側ノ見解ヲ一方ノニ押付ケントスルコト及蘇側カ閉鎖サルヘキ領事館トシテ自ラ「ノヴォ」及「オデツサ」ヲ指摘強要セルコトノ二點ニ從テ今次通告ハ我方トシテ斷シテ同意スル能ハサル所ナル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ本件ニ付テハ既ニ蘇政府ノ決定ヲ經タル次第アリ今更變更ノ餘地ナキヲ遺憾トスル旨前置シタル上東京ニ於テ既ニ久シキ以前ヨリ交渉ヲ行ヒ文書及口頭ヲ以テ蘇側ノ意嚮ヲ充分ニ表明シタルニ拘ラス日本側ニ於テ其ノ主張ヲ枉クルコトナク今日ニ及ヒタルヲ以テ最早交渉ノ餘地モナク今次通告ニ及ヒタル次第ナリ又「ノヴォ」及「オデツサ」ハ保護スヘキ居留民モナク領事館存續ノ理由ナキヲ以テ之カ閉鎖ヲ要求セル次第ナリト答ヘタルニ依リ西ヨリ東京ニ於テハ交渉ノ當初多少口頭ニ依ル話合ハアリシモ其ノ後ハ單ニ文書ヲ以テ往復セ

## 1 日ソ諸案件交渉

ルニ過キサルカ如シ帝國政府ニ於テモ今次通牒ニ接シ意外ノ感ヲ起シタルハ正ニ夫レカ爲ナリ又閉鎖スヘキ領事館數ニ付決定アルトモ之カ地點ヲ決定スルハ日本側ノ權利ニシテ單ニ蘇側ノ主張スル前記ニ領事館ノ實質的閉鎖理由ノミヲ以テ我ニ之ヲ強要スル能ハスト説ケルモ

〔カ〕ハ日本側ハ終始自己ノ主張ヲ一貫シテ讓ル所ナカリキ前記兩館閉鎖理由ニ付テモ既ニ蘇側「ノート」中ニ縷々説明セル所ナリト述フ依テ西ヨリ今日迄ノ交渉ニ於テハ日蘇何レモ自方ノ見解ヲ固持シ來レルモノナリ之二付何等歸結ニ達スル爲ニハ更ニ互讓ノ見地ヨリ話合ノ途ヲ講スヘカリシナリ兩領事館ヲ「デイクテイト」セル點ニ付テハ貴下ノ説明ニ首肯スヘキ點ナシ今次通告ハ謂レナキ最後通牒ナリ日本政府ハ蘇側カ反省スルニ於テハ今尙交渉ノ餘地アリト考ヘ居ル旨縷々説明シタルモ「カ」ハ前言ヲ繰返シ若シ交渉ヲ經スシテ通告セルモノナラハ最後通牒ナリ此ノ際ハ日本政府ニ於テ兩領事館ニ對シ閉鎖引揚ヲ命セラレンコトヲ要望スルノミナリト言ヘリ依テ西ヨリ領事ノ職務執行ヲ認メサルニ於テハ何レノ國ノ領事館ト雖職務執行ノ餘地ナキハ明カナルモ我方トシテハ蘇側ノ協定ヲ無視シタル措置

ニハ飽迄反對ヲ繼續スヘシ尙閉鎖ニ關スル最終方針ハ帝國政府ノ決定ニ俟ツ外ナキモ自分ハ今日尙蘇側ニ反省ノ餘地アルヘキヲ信シ來訪セル次第ナルカ我方ノ明確ナル主張ニ拘ラス反省セスト言フナラハ此ノ上論議ノ要ナシト述ヘタルニ「カ」ハ蘇側ハ今日迄誠意ヲ以テ友好的ニ交渉シ來リ領事館閉鎖ノ如キ大問題ニハアラス尙今次通告ヲ發シタリト雖別段日本代表機關トシテ失フ所ナカルヘシト述ヘタルニ依リ西ヨリ其ノ首肯シ難キ旨尙本日ハ飽迄蘇側ノ反省ヲ促ス爲來訪セルモノナルコトヲ明カニシ辭去セリ

~~~~~

162

昭和12年9月4日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

領事館閉鎖問題におけるソ連側の取極め違反  
に対し先の意見具申の方針に沿って抗議申入  
れ方訓令

本省 9月4日午後7時25分發

第四五三號(主急)

貴電第八一三號ニ關シ

現地領事へハ合第一三五五號ノ通電訓シ置キタル處「ソ」

側ニ對シテハ貴見ノ通抗議方御取計ノ上抗議文ノ内容兩地  
領事へ電報相成度シ

163 昭和12年9月4日 広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

広田外相より在本邦ソ連大使に對し領事館の  
引揚げ時期を六か月後とする案につきソ連政  
府へ伝達方要望について

本省 9月4日後7時25分發

第四五四號(極秘、至急)

往電第四五三號ニ關シ

三日本大臣答禮ノ爲「スラウツキー」大使往訪ノ機會ニ於  
テ領事館問題ニ觸レ「ソ」側ノ出方ハ穩ナラサルノミナラ  
ス時局柄人心ニモ面白カラサル影響アルヘキニヨリ引揚ヲ  
六個月後トシ度キ旨「サゼスト」シ右「ソ」政府へ傳達方  
要望セルニ「ス」ハ種々理窟ヲ竝へ居タルモ之ヲ承諾セリ  
尤モ「ソ」側力直ニ右ノ話ニ應スルヤ疑問ナルモ冒頭往電  
(付箋)ノ處置ハ一應先方ノ出方ヲ見タル上ノコトト致度

(付箋)

デイチヨンニ電話ニテ大臣ノ領事館閉鎖六ヶ月延期方ノ「サ  
ジェスチヨン」ヲ莫斯科へ傳達サレタリヤ未タ傳達シアラサル  
ナラハ右ヲ希望シ居ラルル旨スラヴーツキー大使へ問合せ依頼  
シタルニ「デ」ヨリ「ス」大使ニ話シタルニ左ノ通大臣へ御傳  
へ越度シトノ返事アリタリ

昨日ハ大臣トノ「トーク」ヲ外務部ニ「インフォーム」シタル  
カ今日重ネテ大臣ノ御希望傳言アリタルニ付改メテ大臣ノ「リ  
クエスト」ヲ傳達致スヘシ

一一、九、四、

加瀬(印)

164 昭和12年9月4日

広田外務大臣より

在オデッサ平田(稔)領事、在ノヴォシ  
ビルスク太田(日出雄)領事代理宛(電  
報)

領事館の引揚げはソ連側の強制によりやむを  
得ず行つ態を持しつつ実施方訓令

本省 9月4日後9時40分發

合第一三五五號(至急)

「貴館閉鎖問題ニ付テハ在「ソ」大使ヨリ交渉ノ結果ニヨ

ルモ何等「ソ」側ニ反省ノ模様ナキ處八月十九日附通告ハ「ソ」側カ取極ニ違反シ強制的措置ニ出テタルモノナルニ付近ク同大使ヨリ「ソ」側ハ抗議ノ答ニテ内容貴官宛電報アルヘキニ付其寫ヲ地方官憲ニ送付シ曩ニ貴官ニ對スル「ソ」側通告ニ答ヘ置カレ度シ

二、然ルニ實際問題トシテ十五日以後執務ノミナラス追々居住等モ困難トナリ結局引揚ケル外ナキニ至ルヘキ處引揚ハ飽ク迄「ソ」側ノ強制ニヨリ已ムヲ得サルニ出ツルモノナル形ヲ執ルコト將來ノ爲必要ナルニ付「ソ」側ヨリ引揚期等ニ付申出テ來ルカ又ハ何等壓迫の事實アルヲ待チ強制ニヨル態ヲ持シツツ立退クコトトシタシ尤モ之カ爲何等不祥ノ出來事ヲ生スルカ如キコトハ萬々ナカルヘシト思考セラルルモ極力警戒ヲ要スヘク實際ノ引揚期ハ現地ノ情勢ニ顧ミ貴官ノ裁量ニヨリ適宜定メラレ「ソ」側ヨリハ東京ヘ「オデツサ」ヨリハ一應莫斯科(已ムヲ得サレハ「ワルソー」)ヘ引揚ケラレ度シ

三、右引揚ノ際現地官憲ニ對シテハ日「ソ」領事館設置ニ關スル一九二五年ノ取極ヲ無視セル「ソ」政府ノ強制的ナル一方的措置ニヨリ執務不能トナリタル爲已ムナク全館

員ト共ニ暫ク現地ヲ離ルル旨通告(閉館ヲ通告スルモノニ非ス)セラレ度シ

四、尙貴官及館員ノ家族ハ御裁量ニヨリ今後何時ニテモ歸朝又ハ前記ノ通引揚ケシメラレ差支ナシ

「ソ」側ヨリ在「ソ」大使ヘ轉電アリ度シ

165 昭和12年9月13日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

引揚げ時期の延期に関するソ連側からの拒否

回答を踏まえて抗議申入れ方訓令

本省 9月13日後9時発

第四七五號(極秘、至急)

往電第四五四號ニ關シ

先方ノ回答再三督促シ居タル處十三日「ソ」大使館ヨリ本大臣ノ要望ニ付テハ既ニ本件決定後ニテ再考ノ餘地ナキ趣莫斯科ヨリ申越セル旨回答シ來レルニ付往電第四五三號ノ通御取計アリ度ク尙其際關係帝國領事館各官及家族ノ身邊保護ノ必要生スルカ如キ場合保護ノ責任ハ「ソ」側ニ在ルコトヲ附言シ置カレ度シ

昭和十二年九月十三日

在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

## 抗議文をソ連外務部へ送達について

別電

昭和十二年九月十三日發在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛第八七〇号

右抗議文

モスクワ 9月13日後發

本省 9月14日後着

第八六九號(至急)

貴電第四七五號ニ關シ(在「オデツサ」、「ノヴオシビルスク」帝國領事館否認ニ對スル抗議ノ件)

要領別電第八七〇號ノ抗議文ヲ十三日附ヲ以テ外務部ヘ送達濟

尙貴電後段ノ點ハ明十四日申入ルル筈

(別電)

モスクワ 9月13日後發

本省 9月15日前着

第八七〇號(至急)

(1) 八月十九日附外交部公文(内容ヲ略記ス)ニ對スル回答トシテ大使館ハ訓令ニ基キ左ノ通り陳述ス

蘇政府ハ兩市領事館閉鎖要求ノ根據トシテ所謂同數主義ノ合意及兩地ニ領事事務ナシ云々ヲ主張スルモ其ノ根據ナキコトハ政府ノ反覆シ來レル通りナリ即チ領事館設置ニ關スル現行協定タル一九二五年七月三十一日ノ交換公文ニ列舉セラレタル九個ノ地點ニ領事館ヲ設置スルヲ得ルコトニ確定セラレタリ右設置地點ニ付テハ將來政府間ノ合意ニ依リテ變更セララルコトアルヘキ旨ノ了解附セラレタルモ右以外ニ何等特殊ノ約定ナク一方カ自國ノ都合ニ依リ領事館ノ一個又ハ數個ヲ閉鎖スル場合他方ノ領事館モ義務的ニ同數迄減少セラルヘシト言フカ如キ「同數主義」ノ原則ヲ設定セルコトナシ又蘇側カ右原則ノ根據トシテ屢引用セル一九二六年十月二十七日附大使館口上書ハ前記領事館設置協定成立後ニ行ハレタル領事館管轄區域ノ交渉ニ關スルモノニテ日本領事館ノ數ニ付何等約言ヲ與ヘタルモノニアラス然ルニ拘ラス同文書ヲ以テ我方カ「同數主義」ノ原則ヲ認メタルモノナリト決定スルハ殊更公文書ノ性質及内容ヲ曲解セントスル牽強附會ノ議論ト言ハサルヘカラス兩地領事館

二領事事務ナシ云々ト稱スル論據モ亦誤レリ兩地ニハ屢々日本人旅行者アリ其ノ保護ハ兩館ノ重要任務タルノミナラス我方ハ基本條約ノ規定ニ從ヒ將來兩地方ニ於ケル在留邦人及寄港船舶ノ増加竝ニ通商關係ノ發展ヲ期待スルモノナリ之ニ加フルニ領事館設置協定ノ範圍内ニ於テ蘇聯内ニ於ケル日本領事館ヲ閉鎖スヘキヤ否ヤ將又何レノ地點ヲ閉鎖スヘキヤヲ決定スルハ明カニ帝國政府ノ權利ニ屬シ蘇聯政府ニ於テ指定スルノ權能ナキハ特ニ指摘スルヲ要ス

蘇聯ニ於ケル第三國ノ領事館數カ同國ニ於ケル蘇聯領事館數ヲ超過スルモノアルノ事實ハ蘇政府ノ自ラ熟知スル所ナリ況ヤ各九個ノ領事館設置ヲ可能トスル日蘇協定ノ範圍内ニ於テ事實上兩國ノ領事館數ニ多少ノ不均等ノ存スルコトハ何等異トスルニ足ラス現ニ右ハ過去永年ニ亘リ爲シタル事態ニシテ蘇政府ハ從來何等異議ノ申出モ爲ササリシ次第ナリ以上ニ拘ラス五月九日附ヲ以テ<sup>編註</sup>一日以後在東京總領事館ヲ閉鎖シ其ノ事務ヲ大使館内ニ設置セラルヘキ領事部ニ移スコトニ決セル旨通告シ次テ二日ノ後斯クシテ生シタル兩國領事館數ノ不均等及所謂「同數主義」ノ原則ヲ理由トシテ兩地領事館ノ閉鎖ヲ要求シ現行協定ノ解釋ニ關スル帝

國政府ノ主張ニ付何等首肯スヘキ反對理由ヲモ提出セス其ノ他本問題ニ付未タ充分ノ交渉ヲモ遂ケサルニ突如トシテ閉鎖スヘキ日本領事館ヲ指定シ且短期間ヲ限りテ當該日本領事ノ職務執行權否認ヲ一方的ニ通告シタルハ單ニ帝國政府ニ對スル甚タシキ非友誼的措置タルニ止マラス領事館設置ニ關スル現行協定ヲ蹂躪スルノ暴舉ト言ハサルヲ得ス以上帝國政府ノ主張ハ東京ニ於テ行ハレタル文書往復ニ依リ明白ナリト雖茲ニ重ネテ之ヲ開陳シテ事態ヲ明確ナラシムルト共ニ帝國政府ノ訓令ニ基キ蘇政府ノ前記措置ニ對シ嚴重抗議ヲ提出ス

編注 後日、訂正報により「六月」と訂正された。

167 昭和12年9月14日

在オデッサおよび在ノヴォシビルスク領事館  
閉鎖に関する外務省発表

在「ソ」帝國領事館二個所閉鎖ニ就テ

(九月十四日)

日「ソ」兩國ノ領事館ハ大正十四年莫斯科ニ於ケル交渉ノ際「ソ」側ヨリ或ハ三個所或ハ五個所ヲ主張シタノニ對シ交渉ノ結果同年七月三十一日及八月四日ノ口上書交換ニ依ル取極ヲ爲シタカ之ニ依リ双方九個所ヲ最大限トシ夫レ迄ハ開設シ得ルコトトナリ日「ソ」兩國共ニ八個所ノ領事館ヲ設置シタ然ルニ「ソ」政府ハ其ノ後長崎ニ在ル領事館ヲ閉鎖シ更ニ本年六月ヨリ東京ノ總領事館ヲ廢止スルコトトナツタ爲本邦ニ在ル「ソヴェエト」領事館ハ六個所トナリ彼我領事館數カ不均等ニナツタト言フ理由テ去ル五月中旬以來「ソ」側ハ「オデッサ」及「ノヴォシビルスク」ノ帝國領事館ノ閉鎖ヲ求メテ來タ之ニ對シ「ソ」側ハ一九二六年(大正十五年)ノ口上書交換ニ依リ彼我領事館カ同數テアルヘキタト主張シテ居ルカ之ハ前述ノ大正十四年ノ取極ニ依リ双方共九個所以上ノ領事館ヲ設置シナイコトトナツタノテアルノニ拘ラス「ソ」政府カ任意ニ其ノ領事館ヲ閉鎖シテモ我方カ之ニ應シテ同數タケ閉館シナケレハナラナイ理由ハ全然ナイノテアル。

又「ソ」側ハ「オデッサ」及「ノヴォシビルスク」兩地ニハ帝國在留民ナク又「オデッサ」ニハ寄航スル船舶モナイ

ト言フケレトモ我方トシテハ將來通商航海ノ發展ヲ希望スルモノテアツテ此等領事館ノ存續ヲ必要トスルモノテアルカ我方ヨリ此等論駁ノ餘地ナイ明瞭ナ理由ヲ擧ケ再三「ソ」側ノ反省ヲ促シタカ「ソ」政府側ハ遂ニ九月十五日以後一方的ニ在「オデッサ」及「ノヴォシビルスク」兩領事館ノ職務執行ヲ認メナイ旨我方へ通告シテ來タ。其ノ結果右二地ニ於ケル領事館ノ職務執行ハ事實上不能トナリ遂ニ一時引揚ノ已ムナキ實情ニ立到ツタノテアル然シ帝國政府ハ其ノ主張ハ之ヲ完全ニ留保スルモノテアル。

編注 本文書は、昭和十三年一月、外務省作成「外務省公表

集」第十六輯より抜粋。

168 昭和12年9月15日 在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 日本側抗議に対するソ連外務部の回答について

別電 昭和十二年九月十五日發在ソ連邦重光大使よ

り広田外務大臣宛第八八二二号

右回答要旨

1 日ソ諸案件交渉

第八八一號(至急)

モスクワ 9月15日後発  
本省 9月16日夜着

往電第八六九號ニ關シ「オデッサ」、「ノヴォシビルスク」  
領事館閉鎖ニ關スル件)

十五日外務部ヨリ別電第八八二號ノ通り回答越シタリ更ニ  
何等先方ニ申入ルヘキヤ折返シ御回電請フ

(別電)

モスクワ 9月15日後発  
本省 9月16日後着

第八八二號(至急)  
十五日附外務部回答要旨

蘇政府カ本件閉鎖決定ヲ爲スニ至レル理由ハ在京蘇大使館  
及外務部累次公文文中ニ洩レナク記述シアル旨指摘スルト共  
ニ日本政府カ右公文ヲ以テ提出セル抗議ノ論據ハ前記公文  
ヲ以テ既ニ説明セル通り蘇政府ノ納得シ得サル議論ノ反覆  
ニシテ理由アルモノト認メ難ク從テ右抗議ハ受理シ得ス  
「ノヴォシビルスク」、「オデッサ」へ轉電セリ

169

昭和12年9月18日  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

さらなる領事館閉鎖要求に備えわが方主張堅

持の方針につきソ連側へ明示方訓令

本省 9月18日後3時50分発

第四八九號(極秘、至急)

貴電第八八一號ニ關シ

「ソ」側ニ於テハ更ニ極東ニ在ル我領事館ノ閉鎖ヲ求ムル  
魂膽アリトノ情報モアリ先方トシテハ敦賀及京城ハ在留民  
モ寄航船舶モナク閉鎖容易ニテ現ニ過般京城ヨリ多量ノ文  
書ヲ東京ヘ移シタル事實モアリ此際我方トシテハ斯ル氣勢  
ヲ幾分ニテモ殺グ様措置スルコト適當ト認メラルルニ付外  
務部回答ニ對シテハ適當ノ方法ニヨリ本件ニ關スル我方主  
張ヲ堅持スルモノナル旨ヲ明ニシ置カレ度シ

170

昭和12年9月21日  
在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日本側より二領事館閉鎖につき再抗議および  
引揚げに際しての便宜供与方申入れについて

モスクワ 9月21日前發  
本 省 9月21日前着

第九〇八號

貴電第四八九號ニ關シ(在「オデッサ」及「ノヴォ」帝國領事館閉鎖ニ對シ再抗議方ノ件)

二十日西ヨリ「カズロフスキー」ニ對シ領事館閉鎖問題ハ蘇側協定違反ニシテ我方ハ依然兩地ニ領事館存置ノ權利アルモノナルカ蘇側官憲ハ當館抗議ニ拘ラス現地ニ於テ職務執行ヲ不可能ナラシメタルニ依リ「ノヴォ」ハ十五日「オデッサ」ハ十七日館員ノ引揚ヲ通告セリ右ハ閉鎖ニアラス蘇側壓迫ニ依ル一時引揚ナリト述ヘタルニ「カ」ハ領事館ハ閉鎖セラレタリ蘇側ノ同意ナクハ日本側ニ置存權アリ得ス等ト答ヘタルニ依リ西ヨリ更ニ反駁シタル後館員引揚迄ノ暗號電報及電報「アドレス」使用、平田書記官ヘノ外交査證及「レセ パツセ」、「ノヴォ」館員ノ汽車切符購入上ノ特別便宜供與方申入レタルニ出來ル丈ケ便宜計フヘキ旨約セリ

171 昭和13年2月12日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使、在滿州国植田大使  
他宛(電報)

在本邦ソ連大使より在ハバロフスク日本領事

館等三館の閉鎖方要求について

本省 2月12日後3時30分發

合第五〇七號

十日「スラヴツキー」大使堀内次官ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ基ク旨前置キシ「ソ」政府ニ於テハ在日自國領事館六箇中神戸、小樽及大連ノ三館ヲ閉鎖スルニ決定セルニ付同數主義ノ見地ヨリ日本側ニ於テモ在「ソ」領事館六箇中三館ヲ減少セラレ度シト云ヘルヲ以テ次官ヨリ領事館減少ノ理由ノ明示ヲ求メタル處「ス」ハ最高會議其他ニ於ケル「ソ」政府ノ對外一般政策ヨリ出テタルモノニシテ特ニ日本ニ對シテノミ減少ヲ要求スル次第ニ非ス英國、土耳其其他ノ國トモ相互ニ減少スル事トナレリ「ソ」側トシテハ日本政府カ事務的考慮ヨリ浦潮、「ペトロ」ノ二館及「オハ」又ハ亞港ノ中ノ一計三館ヲ殘置シ爾余ノ三館ヲ二ヶ月以内ニ閉鎖セン事ヲ期待スト述ヘタリ依テ次官ハ一本本日申出ノ次第ハ相談ナリヤ通告ナリヤト尋ネタルニ「ス」ハ「ソ」

政府ノ通告ナリト云ヒタルニ付次官ヨリ當該國カ自國領事館ヲ減少スルハ自由ナルモ對手國ニ之ヲ強ユルハ不當ナリト詰リタルニ「ス」ハ「ソ」側モ閉鎖スルモノナレハ決シテ一方のナラス相互主義ニ基ク行動ニシテ哈府及武市ハ在留民無ク閉鎖スルモ事實上大シタ痛痒ヲ感セサルヘシナド余計ナ言ヲ弄セリ依テ次官ハ假リニ領事館ノ減少スル事ニ就キ兩國間ニ意見ノ一致ヲ見ルトスルモ「ソ」側カ我方閉鎖領事館ヲ指定スル以上我方ニ於テモ「ソ」側閉鎖領事館ヲ指定スル權利ヲ留保スヘシ「ソ」側カ我方ノ獨自ニ決定スヘキ事柄迄一方的ニ決定シ通告シ來ルモノトセハ我方ハ嚴重抗議セサルヲ得ス若シ提議ノ趣旨ナリトセハ一應研究スヘキ因果シテ同意シ得ルヤ否ヤハ豫言ノ限りニ非スト述ヘ置キタル趣ナリ

172

昭和13年2月15日

在アレクサンドロフスク田中総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

石油利権擁護のため在オハおよびアレクサン  
ドロフスク両領事館の存続が必要との見解に  
ついて

アレクサンドロフスク 2月15日前発  
本省 2月15日後着

第二三號

貴電合第五〇七號ニ關シ

當地ト東海岸石油利権所在地間ハ交通不便、海路定期船乃至客船ナク島内陸路旅行ハ宿舍乗物等ノ便宜供與ナキ現狀ニ於テ不可能、飛行機モ昨春村瀬副領事旅行ノ場合ノ如ク利用出來ス郵便ハ「オハ」當地間ニ一箇月以上ヲ要スル實情ナルヲ以テ當館又ハ「オハ」分館ノ内一ヲ撤廢スル場合當館ヨリ石油關係事業及邦人保護ニ付機宜ノ措置ヲ取り難ク又「オハ」ヨリ外務、行政、司法其他ノ蘇州官憲及石炭利權ト聯絡スルコトモ同様ナルヲ以テ當方面ニ我利權ノ存在スル限り當館及「オハ」ノ兩館ノ存続ハ絕對ニ必要ナリト察セラル

蘇、「オハ」へ轉電セリ

173

昭和13年2月15日

在オハ多賀谷(樽)分館主任より  
広田外務大臣宛(電報)

北樺太利権事業へのソ連官憲の庄迫深刻な状

況下においてオハ分館存続は絶対必要との見解について

オハ 2月15日前発  
本省 2月16日後着

第一四號

貴電合第五〇七號ニ關シ(領事館閉鎖ニ關スル蘇側申出ノ件)

領事館閉鎖ノ主ナル理由トシテ蘇側ハ在留民ノ有無ヲ云々シ居ル趣ナルカ當館管轄タル石油會社關係邦人ハ事業縮少ノ結果減少セリトハ言ヘ現ニ尙七百五十人餘ヲ算シ會社計畫ニ依レハ夏季ハ約二千三百人ニ増加ヲ豫想セラルル外艦船ノ出入モ鮮カラサルニ依リ(客年「オハ」入港軍(艦)九隻商船二十九隻)旁我方權益擁護乃至居留民保護ノ見地ヨリ當館存続ハ絶対必要ト認メラル殊ニ御承知ノ如ク蘇官憲ノ壓迫深刻ナルモノアリテ従業員中ニハ企業ノ將來ヲ悲觀スル者多ク意氣沮喪ノ傾向漸ク一般的トナレル此ノ際當館閉鎖ヲ見ルカ如キコトアラハ彼等ニ鮮カラス不安ヲ與ヘ歸國者續出スヘク(隔週航海杜絶ヲ前ニ國交惡化ヲ氣ニシ歸國希望者續出セル事實アリ)愈以テ企業經營ニ支障ヲ來ス

コトトナルヘシ御參考迄

174 昭和13年2月21日

廣田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使、在滿州國植田大使  
他宛(電報)

領事館閉鎖要求には同意できずとの日本側意見を在本邦ソ連大使へ申入れについて

本省 2月21日後8時50分発

合第六〇六號

往電合第五〇七號ニ關シ

二十一日堀内次官ヨリ「ス」大使ニ對シ領事館閉鎖方申出ニ對スル帝國政府ノ意見トシテ(一)「ソ」側ハ日「ソ」兩國共ニ三箇宛ノ領事館閉鎖ヲ提起シ來レル處元來我方ハ「ソ」側ノ所謂同數主義ニ同意シ得ス「ソ」側カ自方ノ都合ニテ三領事館ヲ閉鎖スルハ勝手ナルモ同數ノ閉鎖ヲ我方ニ對シ迫ルハ不穩當ナリ但シ「ソ」側カ三領事館閉鎖ニ決定セルヲ以テ我方ニ於テモ若干減少アリ度シトノ相談ナレハ考慮シ差支無ク此意味ニ於テ我方ハ充分考慮シタルカ何レモ存置ノ要アル次第ナルモ難キヲ忍ビ武市ヲ閉鎖スヘシ(二)「ソ」側ハ其申出三館中ノ何レ(全部又ハ一部)ヲ閉鎖ス

ルモ自由ナルコト(三)哈府ハ極東地方上級官廳ノ所在地ナルト共ニ交通ノ要路ニ當リ居リ我方トシテハ「ソ」側官憲トノ連絡ニ重キヲ置ク次第二ニ現ニ漁業條約第十條第三項ノ規定ノアル程ナレハ同地總領事館ノ存在ハ必要ナリ若シ在留民及出入船舶無キ故ヲ以テ領事館存在ノ要ナシトセハ在京城「ソ」總領事館ノ如キハ正ニ必要ナシト言ハサルヲ得ス又在北樺太ノ二領事館ハ何レモ條約ニ基ク利權事業存シ多數邦人在留シ存置ノ要アル事ハ説明スル迄モ無キコト(四)「ソ」聯ハ一方的ニ日本ニ通商代表部ヲ有シ約三十名ノ部員ヲ擁シ通商事務ヲ執掌セシメ居ル處領事館問題ヲ公平ニ調整スル爲メニハ通商代表部ノ問題ヲ一括考慮スル要アリ從テ「ソ」側ノ出様如何ニ依リテハ同代表部ノ存續又ハ規模縮少ヲ問題ニセサルヲ得サルコトヲ敷衍説明シ正確ニ本國政府ヘ傳達センコトヲ求メタル處「ス」ハ自分ノ氣附キヲ述ヘ度シトテ(一)同數主義ハ「ソ」政府ノ強ク主張スル自然原則ニシテ日本側ニ於テ武市ノミナラス三館閉鎖ヲ期待ス(二)浦潮總領事館存スル以上哈府存在ノ必要無カルヘク漁業其他ノ問題ニシテモ哈府ニ非サレハ解決困難ナリト云フコト無シ(三)京城ハ朝鮮ニ於ケル唯一ノ領事館ニシテ總督府

官憲トノ連絡上存置ノ要アリ浦潮ヲ扣フル哈府ト比較シ得ス(四)通商代表部問題ハ領事館問題トハ何等關係無シ云々ト言ヘルニ付次官ハ右ハ「ス」ノ私見トシテ聽キ置クヘキカ何レモ同意シ得ス前述ノ日本政府ノ意見ヲ莫斯科ヘ傳達アリタシト更ニ念ヲ押シタルニ「ス」ハ本國政府ヘ報告シ同訓アリ次第御通知スヘシト答ヘタル趣ナリ

本電宛先 莫斯科、新京、浦潮、哈府、亞港、武市、オハ  
~~~~~

175 昭和13年2月25日 在ウラジオストク七田總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

**ソ連側が在ウラジオストク總領事館閉鎖を要**

**求する可能性およびその対策について**

付記 昭和十三年二月十八日、在ウラジオストク總

領事館作成

「我在蘇極東領事館閉鎖ニ關スル蘇政府ノ通告

ニ對スル軍事的觀察」

ウラジオストク 2月25日後発

本省 2月25日夜着

第四三號(至急、極秘)

貴電合第五〇七號ニ關シ(領事館閉鎖ニ關スル蘇側申出ノ件)<sup>(1)</sup>

蘇側要求ノ主要眞因カ防諜上ノ必要ニ出ツル以上更ニ當館ノ閉鎖(當館使用人中ニハ本年四、五月頃要求アルヘシトノ噂アリ)ヲ實現シ純然タル軍事基地化シ行ク浦潮港並ニ極東地方ヲ假想敵視スル我方ノ眼ヨリ隱蔽セントスルハ右要求ノ「ライン」ニ副フモノト言フヘク唯我定期船及漁業關係事務ノ存在ハ一足飛ニ右措置ニ出ツルヲ困難ナラシムルモノアルモ執拗且計畫的ナル蘇側ノ此ノ原因除去ニ乗出スヘキコトモ想像シ得ル所ナリ現ニ當地外交代表及漁業廳ノ態度ハ日魯出張員滞在ノ價值ヲ減少セシムルモノアリ(當業者ノ交渉案件ニテ中央移牒ノモノアリ當地ニテ交渉繼續中ノ件ニテモ中央決定ヲ云々シテ解決遷延スル傾向アリ來浦中ノ日魯近江事業部長ノ如キモ當地事務所ノ移轉カ少クトモ特別出張員ノ莫斯科駐在ノ要ヲ認メ居ルカ如シ)<sup>(2)</sup>定期船二付テハ現在猶氣配感セラレサルモ往電第四一號ノ次第モアリ此ノ際定期表ノ恪遵最モ望マシク(從來屢々延着セルノミナラス會社側ノ都合ニテ時間前ニ出港スルコトアリ又入港時間ノ打合不充分ニテ水先案内ニ無駄足ヲ踏マ

シメタル事例アリ)更ニ航海書類ノ整備、船員行動取締(三浦、大林<sup>?</sup>一行ハ新高丸船員カ港内各所ヲ徜徉シ不謹慎ノ行爲アリタルヲ目撃セリ)等ヲ充分ニシ萬一臨檢等ノ場合ニ先方ニ言懸ノ切懸ヲ與ヘサル様注意ノ要アリト存スルニ付右ノ點至急兩汽船會社ニ御訓達相成度シ  
蘇へ轉電セリ

## (付記)

特第四號

昭和十三年二月十八日

在浦潮斯德

(3月1日接受)

外務省歐亞第一課長殿

我在蘇極東領事館閉鎖ニ關スル蘇政府ノ通告

大日本帝國總領事館

ニ對スル軍事的觀察

第一 蘇側ノ企圖判斷

(一)我領事館閉鎖ノ目的

今面ノ我在蘇極東領事館閉鎖ニ關スル蘇政府ノ通告ハ最<sup>(同カ)</sup>近ニ於ケル蘇國ノ一般の鎖國政策ノ一現象タルヘク且本

年一月最高會議ノ席上ニ於テ外交委員長「ジユダノフ」ノナセル「在「レニングラード」外國領事館撤廢ニ關スル演說」ニ依リ一層拍車ヲ掛ケラレタル結果ナリト謂フヲ得ヘシ

而シテ蘇國カ右ノ如キ一般的鎖國政策ヲ採用スルニ至レルハ(一)外國ト通謀連絡セントスル反「スターリン」分子ノ根絶(二)國內諸建設ノ爲メ外國ノ技術及ヒ物資等ノ援助ヲ藉ルノ必要ノ減少(三)軍機保護及ヒ防諜ノ徹底等政治的、經濟的及ヒ軍事的ノ必要ヨリ出テタルモノト推測セラレ然レトモ之レヲ極東地方ニ於ケル我國トノ關係ヨリ觀察スルニ(一)ノ政治的の見地ニ於テハ我領事館ノ外部トノ接觸殆ント絶縁セラレ居ルノ現狀ヨリ觀テ殆ント之レヲ顧慮スルノ要ナク又(二)ノ經濟的の見地ニ於テハ漁業、石炭及ヒ石油等ノ我利權ヲ壓縮センカタメニハ必要ニシテ且既ニ其ノ底意ヲ觀取シ得ルモノアルモ未タ徹底のニ之レヲ壓迫驅逐セントスルノ域ニ達セス、然ルニ極東地方ニ於ケル凡ユルモノヲ擧ケテ對日戰備ノ強化ニ邁進シツ、アル現狀ヨリ觀レハ(三)ノ軍事的の目的コソ最モ重大ナル意義ヲ有スルモノナルヘキコトハ明カナル所ナリ

## (二)我領事館閉鎖ノ範圍及ヒ其ノ緩急

抑々我在蘇極東領事館ノ表面的存在意義ハ在留邦人ノ減少及ヒ朝鮮人ノ強制移住等ニ依リ遂次ニ減少シ而カモ目下殘存セル唯一ノ存在根據トモ謂フヘキ漁業、石炭竝ニ石油利權及ヒ我定期船等ニ關スル事項モ蘇側ハ次第二我領事館ノ介入ヲ排除セントスルノ傾向ニ在ルヲ以テ現在ノ情勢ヲ以テ推移センカ終ニハ全ク其ノ存在意義ヲ消失スルニ至ルヘキハ明カナリ

從ツテ右ノ時機ニ至ラハ前項記述ノ如ク我在蘇極東領事館ノ存在ヲ喜ハサル蘇國トシテハ之レカ全廢ニ乘リ出スヘキハ豫想スルニ難カラス

然レトモ未タ最後の決意ヲナシ得ルニ至ラサル蘇國ハ一舉徹底の彈壓ヲ強行スルコトナク巧ニ我國輿論ノ激昂ヲ回避シツ、緩急時ニ應シ遂次ニ我ヲ壓縮シ終ニ其ノ目的ヲ達セントスルノ蘇國一流ノ巧妙惡辣ナル慣用手段ニ依リ先ツ第一ニ存在根據ノ薄弱ナル我領事館ノ閉鎖ヲ強行シ之レニ成功センカ次テ軍機保護及ヒ防諜等軍事上ノ顧慮最モ大ナル在極東大陸ノ我領事館ヲ全廢シ終ニハ漁業、石炭及ヒ石油等ノ我利權ニ對スル壓縮ト相俟ツテ我

領事館全部ヲ撤廢セントスルニ至ルヘシ

昨年夏ニ於ケル我在「オデツサ」竝ニ「ノヴォシピリス  
ク」領事館ノ閉鎖強要ハ之レカ小手調ナリシモノト謂フ  
ヘク今回ノ在極東領事館閉鎖ニ關スル通告ハ即チ之レカ  
第一楷程ニシテ次テ來ルヘキモノハ浦潮總領事館ノ閉鎖  
ナルヘク更ニ將來ニ於テハ在「サガレン」竝ニ「カムチ  
ヤツカ」ノ領事館ニ迄及フヘキハ豫期セサルヘカラサル  
所ナリ

而シテ蘇國カ前述セル如キ政策ヲ敢行スルタメニハ目下  
ノ時期ハ最モ適當ナリト謂フヘク即チ我國ハ今ヤ日支事  
變ノ解決ニ没頭シ他ヲ顧ミルノ余裕尠ク而カモ國際情勢  
ハ必スシモ我レニ有利ナラス蘇國カ多少ノ無法ヲ敢テス  
ルモ我レハ實力的反撃ヲナシ得サルノ現況ニ在ルヲ以テ  
ナリ、從ツテ蘇國ハ相當強硬ナル態度ヲ以テ我レニ臨ミ  
且案外急速ニ強行スルコトアルヘキハ之レヲ豫期セサル  
ヘカラス

## 第二 我在蘇極東領事館ノ存續價值

### (一) 軍事的價值

我在蘇極東領事館ヲ存續セシムルコトノ必要ナルハ今更

贅言ヲ要セサル所ナルカ之レヲ軍事の見地ヨリスレハ特  
ニ在極東大陸領事館ヲ存續セシムルコト必要ニシテ萬已  
ムヲ得サル場合ニ於テモ浦潮領事館ノ存續ハ絕對のモノ  
ナリ

抑々極東地方ハ將來ニ於ケル吾人ノ豫想戰場ナルヲ以テ  
此處ニ駐在スルコトハ縱令特種情報ヲ蒐集シ得サル場合  
ニ於テモ唯單ニ實情ヲ見聞スルコトノミニテ大ナル價值  
アリ而カモ情報入手ノ機會ヲ捕捉スルコト絶無ニアラサ  
ルニ於テ益々然リトス、特ニ開戰ノ氣運切迫セル時機ニ  
於テハ絶大ノ價值ヲ發揮スルニ至ルヘシ

更ニ極東大陸ニ於ケル我領事館ノ存在ハ「クリエール」、  
其他ノ旅行者ノ視察旅行ヲ保證スルモノナリ

從ツテ若シ我在蘇極東大陸領事館ニシテ全廢セラレンカ  
極東地方ハ全ク謎ノ地方ト化スルニ至ルヘキハ明カナル  
所ニシテ其ノ存續ノ必要ナルハ言ヲ要セサルヘシ、就中  
極東赤軍主力カ「ウスリー」竝ニ沿海州地方ニ駐屯シア  
ルノ事實及ヒ視察旅行ノ順路等ヨリ觀レハ浦潮領事館ノ  
價值ハ最モ重要ナルモノト謂フヘシ

### (二) 一般的價值

一般的の見地ヨリスレハ主トシテ漁業、石炭及石油等ノ我利權ヲ確保スルタメニ大ナル價值ヲ有ス之レタメニハ亞港、「オハ」、浦潮竝ニ「ペトロ」ノ諸領事館ハ存續ノ必要アルヘキモ本稿ニ於テハ之レカ詳述ヲ略ス

### 第三 我對策

#### (一) 方針

我在蘇極東領事館ハ凡ユル方策ヲ講シテ之レカ存續ヲ期スルヲ要ス

特ニ日支事變ノ渦中ニ在ル我國現下ノ情勢ニ於テハ對支諸懸案ヲ解決シ我國策ノ重點ヲ蘇國ニ指向セシメ以テ實力的威壓ヲ示シ得ルニ至ル迄ハ如何ナル壓迫、迫害ヲモ耐エ忍ヒ堅忍持久以テ少クモ極東大陸ニ於ケル一館ヲ固守スルヲ緊要トス

#### (二) 根本方策

日支事變ヲ速カニ解決スルコトノ緊要ナルハ今更言ヲ要セサル所ニシテ對蘇關係ヨリ觀ルトキハ特ニ然ルヲ痛感セサルヲ得ス而シテ我在蘇極東領事館ノ存續問題ヲ解決スルタメノ根本モ亦茲ニ存ス

然ルニ最近ニ於ケル我國一般ノ風潮ハ蘇國內ノ肅正工作

ヲ以テ民心ノ不安動搖及ヒ産業ノ衰退ハ拾收復興スヘカラサル混亂狀態ニ在リトシ甚シキハ「スターリン」政權崩壞ヲサヘ云爲スル者アリテ著シク蘇國ヲ輕視スルニ至レリ、其結果ハ次第二日支事變ニ深入リスルニ至リ遂ニハ對英開戰論、積極南進論ヲサヘ唱道スル者アルニ至レリ

然レトモ蘇國ノ實情ヲ觀察スルニ其ノ國內肅正工作モ最高會議選舉ヲ機トシテ概ネ一段落ヲ告ケ特ニ本年一月ニ於ケル黨中央部ノ決定ニ依リ愈々之レヲ確定的ナラシメ今後ハ專ラ國內團結ノ鞏化、産業ノ復興及ヒ軍備ノ充實ニ邁進スルニ至ルヘシ、而シテ肅正工作ノ組上ニ上リタル者ノ大部分ハ何等深刻ナル政治的、思想的根據ヲ有セサリシ事實ハ之レカ成功ニ根據ヲ與フルモノト謂フヘシ、從ツテ蘇國ノ動向ハ決シテ樂觀ヲ許ササルモノアリ

以上ニ依リ現下ニ於ケル我國ノ急務ハ此ノ際朝野ノ對蘇認識ヲ更メ多少ノ犠牲ハ之レヲ忍フモ速カニ對支問題ヲ解決シ國策ノ向フヘキ重點ヲ北方蘇國ニ指向スルコトニ在リ、斯クノ如クシテ蘇國ニ對シ實力的威壓ヲ示シ得ルニ至ラハ領事館存續問題ノ如キハ容易ニ解決シ得ルニ至

ルヘシ

而シテ右ノ時機ニ到達スル迄ハ凡ユル方策ヲ以テ之レカ  
存續ヲ計ルヘク萬已ムヲ得サル場合ニ於テモ前項ニ記述  
セル理由ニ依リ少クモ極東大陸ニ於ケル一館ヲ最後迄確  
保スルヲ緊要トス

### (三) 今回ノ蘇側通告ニ對スル方策

從來ノ行掛リ上先ツ全面的拒絶ノ態度ヲ示スヘキハ當然  
ナルモ前述セル諸理由ニ依リ恐ラク之レカ貫徹ハ困難ナ  
ルヘク之レヲ固執スルトキハ却ツテ彼レノ要求ヲ事實上  
ニ於テ全面的ニ容認スルノ結果ヲ招來スルノ虞レアルヲ  
以テ適當ノ時機ニ妥協的態度ニ出テ實質的存續價值ノ比  
較の僅少ナル武市ノ自發的閉鎖ヲ提議シ尙妥協シ得サル  
トキハ「サガレン」若クハ「カムチャツカ」ノ一館已ム  
ヲ得サル場合ハ二館ヲ閉鎖スルヲ可トス、而シテ哈府ノ  
閉鎖ハ最後迄之レヲ拒絶スルヲ要シ其ノ存續理由トシテ  
ハ漁業條約上ノ規定及ヒ極東政廳ノ所在地等相當ノ根據  
アリト思考ス

### (四) 將來ニ對スル方策

#### (1) 蘇側ニ對スル我領事館ノ存在價值ノ增強

蘇側カ我領事館ノ存在意義ヲ漸減セシメント企圖シツ  
ツアル現狀ニ於テ之カ增強ヲ圖ラントスルハ誠ニ困難  
ナリト謂ハサルヘカラサルモ現狀ノ儘放置センカ終ニ  
ハ彼レニ全廢ノ口實ヲ與フルニ至ルヘキヲ以テ凡ユル  
機會ヲ捉ヘテ之レカ增強ニ努力スルヲ緊要トス之レカ  
爲メ我民營機關存續及ヒ邦人ノ在留ニ對スル強硬支援、  
我各種利權ノ確保等ヲ期スルト共ニ苟モ領事館ニ於テ  
蘇側機關ト交渉シ得ル問題ハ縱令其ノ解決困難ト豫想  
セラル、場合ニ於テモ直チニ中央ニ移牒スルコトナク  
領事館ヲシテ先ツ交渉セシメ或ハ中央ト平行シテ交渉  
セシムルノ考慮ヲ要ス特ニ蘇側ヨリノ依頼事項ニシテ  
地方的問題ハ領事館ニ於テ交渉解決スルノ原則ヲ確立  
シ之レヲ蘇側ニ徹底セシムルト共ニ之等問題ニ關シテ  
ハ我領事館ニ於テハ外觀上ナリトモ熱心親切ニ斡旋ス  
ルノ風ヲ示スヲ可トス

#### (2) 浦潮領事館存續ノタメノ方策

蘇側ニ對スル浦潮領事館存續ノ根據ハ我定期船ノ出入  
竝ニ之レニ關聯スル船會社代表ノ駐在及ヒ漁業條約ニ  
ヨル規定竝ニ日魯漁業會社出張所ノ存在等ナリ、然レ

トモ此等ノ根據モ確實ニ將來ヲ保證シ得ルモノニアラスシテ蘇側ハ國際交通路ノ香港又ハ上海方面ヘノ轉換及ヒ日魯出張所竝ニ漁業交渉地ノ他ノ地點ヘノ移管(例ヘハ亞港ノ如シ)等ヲ強行シ得ヘク現ニ昨年一月ニ於ケル「さいべりや」丸事件及ヒ最近ニ於ケル日魯出張員ニ對スル居住權不認可問題等ニ於テ之レヲ廢止又ハ撤去セシメントスルノ底意ヲ窺ハシムルモノアリタリ、從テ右根據確保ノタメ凡ユル方策ヲ購<sup>購</sup>スルハ浦潮領事館ヲ存續セシムルタメ最モ緊要ナルコトトス

~~~~~

昭和13年3月3日 在ソ連邦重光大使より  
広田外務大臣宛

### ソ連の排外政策による在住外国人の減少につ

いて

公機密第八八號 (接受日不明)

昭和十三年三月三日

在「ソヴィエト」聯邦

特命全權大使 重光 葵

外務大臣 廣田 弘毅殿

「ソ」聯ノ排外政策ニ依ル在住外人減少ニ關スル件

「ソ」聯ノ排外政策ハ近來著シク露骨トナリタルハ累次報告ノ外國領事館閉鎖要求、外國人ノ逮捕等ニ依リ御承知ノ通りナル處右排外政策ハ「ソ」聯ノ現ニ包藏スル内部不安ノ反映タルト同時ニ「ソ」聯ノ目シテ以テ近キニアリトナス對外戦ノ場合ニ於ケル後方攪亂ノ憂ヲ根絶セントノ政策ノ表レト見ルヘキニ依リ今後益々強化セラルヘク現ニ「ソ」聯ハ追放、居住權ノ更新拒否等ニ依リ外國人ノ追出ヲ企テツツアル外故意ニ外國人ニ種々ノ壓迫ヲ加ヘ其ノ生活ヲ殊更ニ不愉快ナラシメ以テ自發的ニ退至スル<sup>去</sup>様仕向ケツツアル結果在住外國人ノ數ハ日日ニ減少ノ一途ヲ辿リツツアル御參考迄ニ當館館員カ當地外交團員(主ニ參事官又ハ主席書記官)ヨリ聞込ミタル所ヲ列擧スレハ左ノ如シ

「アフガニスタン」―約五千人居リタルモ漸減シツツアリ  
獨逸 ―「ソ」聯在住獨人ノ數ハ八百名位(ウ

クライナ「ウオルガ」沿岸地方等ニ於ケル獨系約數十萬人ヲ別トス)内逮捕セラレタル者五百名、其内數十名ハ釋放セラレタリ

米國

―嘗テハ千人モ居タルカ現在ハ三百人位トナル

塊國

―百三十人モ逮捕セラレ居レリ「ポチヨムキン」カ誰ト誰ノ釋放ヲ希望スルヤト尋ネタルニ付塊公使館ヨリ氏名ヲ通知シタル處之等ノ者ハ却テ釋放セラレス他ノ者ヲ釋放スル始末ナリ

白國

―百人位居リタルモ近ク皆無トナルヘシ「ソ」側ハ居住權ノ更新ヲ肯ンセス

「ブルガリア」

―毎日五家族位引揚ケツツアリ之カ關係事務ハ公使館ノ重要ナル仕事トナリ居レリ斯テ今日迄二千人引揚ケタルカ尙三千人位引揚ケシムル要アリ

「エストニア」

―三、四十人位アル内十九人逮捕サレ居レリ

英國

―二百人位居リタルカ一人一人ト減少シツツアリ

伊太利

―逮捕セラレタル者四十名位(備考、獨逸新聞ノ報ニ依レハ最近「バツーム」

諾威

「チフリス」「オデツサ」ヨリ追放セラレタル伊太利人六十八名「ベニス」ヘ到着セルカ之等ハ何レモ二、三代「ロシア」ニ居住セル者ナルニ僅カノ手荷物ノミヲ抱ヘテ歸國スルヲ餘儀ナクセラレタル由)

波蘭

―「ソ」聯全体ニテ在住諾威人十二人位、逮捕セラレタル者一人モナシ

瑞典

―波蘭系ノ者百萬人モ居ルカ内波蘭國ノ旅券ヲ有スル者五百人位、逮捕セラレタル者餘リナシ但波蘭系ノ者ニシテ「ソ」國籍ヲ有スル者五十萬人位「トルキスタン」「シベリア」、極東地方ヘ居住セシメラレタリ

―逮捕セラレタル者ナシ但「オデツサ」ニ四十五年モ住ヒ「ロシア」人ト結婚シ家庭ヲ持チ居タル瑞典人ノ老人一名家族ヲ置キ去リニシテ「ソ」聯ヨリ出國スルヲ餘儀ナクセラレタリ

「チエツコ」

―五千人モ居タルモ段々追放サレテ減少

ス

土國

―數年前四萬人モ居リタル土國人ハ現ニ

五千位ニ減少セリ

以上



177

昭和13年3月5日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使、在滿州國植田大使  
他宛(電報)

日本側意見に対し閉鎖要求の撤回は領事館同

数主義の立場から不可能とする在本邦ソ連大

使の回答について

本省 3月5日午前10時30分發

合第七二〇號

往電合第六〇六號ニ關シ

二日「ス」大使堀内次官ヲ來訪本國政府ノ回答ナリトテ

(一)「ソ」政府ハ領事館ノ均等主義ヲ強ク保持シ三館宛閉鎖

ニ關スル自國決意ヲ纏ス能ハス尤モ日本ノ閉鎖スヘキ三

館ノ場所ニ就キ日本側ニ別箇ノ意見モアラハ商議ニ應ス

ル用意アリ

(二)日本カ京城閉鎖ヲ要求スルニ於テハ閉鎖スルモ差支無シ

但シ其場合兩國ハ相互ニ四館宛閉鎖スヘキ事ヲ提議ス

(三)通商代表部ハ領事館問題ニ關係無シ同部ニ關スル日本側

申出ハ其閉鎖ヲ強フルモノト認メラルル處之ハ日「ソ」

通商關係ヲ停止セシムルノミナラス日本利權業者ニ必要

ナル物資ヲ供給スル機關ヲ失フ(利權會社方現地へ物資

ヲ送込ム場合輸入許可ヲ通商代表部ニ於テ取付ケ居ル事

ヲ指ス)

ト述ヘタルヲ以テ次官ヨリ

(一)日本政府ハ均等主義ナルモノヲ絶体ニ認<sup>(對カ)</sup>ムル能ハス「ソ」

側カ閉鎖領事館ノ選定ニ就キ我方ノ希望ヲ容ルルモ差支

無シトノ點ハ幾分我方ノ考ヘニ接近シ來レルモノナルモ

我方ハ依然五館存置ノ必要ヲ認ムルモノナリ

(二)通商代表部ハ實際領事々務ノ一部ヲ行フモノナルヲ以テ

我方トシテ領事館問題ニ關聯シ同部ノ存續、縮少ヲ考慮

セサルヲ得サルハ當然ナリ

ト應酬シ再應我方ノ主張ヲ「ソ」政府へ傳達方求メタル處

「ス」大使ハ右傳達困難ナルモ本日會談ノ次第ハ報告スヘ

シト答ヘタル趣ナリ

本電宛先 莫斯科、新京、浦潮、哈府、亞港、武市、オハ

178 昭和13年3月11日 広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使、在滿州国植田大使  
他宛(電報)

在本邦ソ連大使に対し領事館閉鎖要求は重大  
な条約蹂躪行為であるとして抗議の上在本邦  
ソ連通商代表部員減員方要求について

付記 昭和十三年三月七日、欧亜局第一課作成

第一回領事館閉鎖問題対策各省間会議要旨

本省 3月11日後1時50分發

合第七七六號

往電合第七二〇號ニ關シ

十日堀内次官ハ「スラヴツキ一」大使ヲ招致シ

(一)我方ハ「ブラゴエ」一館ハ閉鎖差支ナキモ他ハ何レモ必  
要ナリトスル我方意見ニ變リナシ尙領事館ノ所在地ハ一  
九二五年交換セル口上書中ニ定メラレ其變更ニ付テハ兩  
國政府ノ合意ヲ要スルコトトナリ居ル次第ヲ「リマイ  
ン  
ド」ス

(二)北樺太ニ於ケルニ領事館ハ其ノ何レモ閉鎖ヲ強制セラル

ル場合ハ利權業者ハ非常ナル不安ヲ感シ全部引揚クル事  
トナリ其結果基本條約ニ基ク日本ノ重要權益ハ事實上潰  
滅スヘク右ハソ側ノ重大ナル條約蹂躪行為ナルヲ以テ帝  
國政府ハ嚴重「ソ」政府ノ反省ヲ促ササルヲ得ス

(三)我方ハ領事館問題ニ對スル「ソ」政府ノ態度ヲ考慮シ四  
月末日迄ニ通商代表部員ヲ八名ニ減員方ヲ要求スル旨申  
シ述ヘタリ

右ニ對シ「ス」ハ口上書ニハ只場所ニ就キ定メアルモ一九  
三七年ノ「ソ」側口上書中ニハ同數主義ヲ主張シ居リ北樺  
太ニ領事館無クトモ利權事業ノ經營ニハ差支無ク況ンヤ  
「ソ」側ハ二館中ノ一館閉鎖ヲ要求スルニ過キス又通商代  
表部員ヲ八名ニ減員スル事ハ事實上閉鎖ヲ強ユルニ等シト  
言ヒタリ依テ次官ハ我方ノ意見及要求ヲ反復説明シ莫斯科  
ヘ傳達方ヲ求メタルニ「ス」ハ報告スヘキ旨應諾セル趣ナ  
リ

本電宛先 莫斯科、新京、浦潮、哈府、亞港、武市、オハ

(付記)

領事館閉鎖問題ニ關スル件

三月七日歐亞局長主宰ノ下ニ領事館閉鎖問題對策ニ付意見交換ヲ行フ

外務 井上歐亞局長、加瀬一課長、田中事務官(通一)

燃料局 柳澤第二部長、畠中資源課長、榎本事務官

陸軍 早淵中佐、齋藤少佐

參謀 川俣課長、山本班長

海軍 岡軍務一課長、藤井中佐

軍令 中瀬中佐

歐亞局長ヨリ領事館閉鎖問題ノ對策ニ付關係官廳當局間ニ於テ忌憚ナク意見ノ交換ヲ行ヒ政府ノ對策決定ニ資シ度キ旨ヲ述ヘ加瀬課長ヨリ二月十日「ソ」大使外務次官來訪領事館三箇宛閉鎖方申出テ以來ノ彼我ノ交渉經過概要ヲ爲念繰返シ井上局長ヨリ本件對策ノ當面ノ要點ハ亞港總領事館ノ引揚ヲ餘儀ナクセラルル場合條約ニ基ク利權保護ノ見地ヨリスル對策及哈府總領事館引揚ヲ餘儀ナクセラルル場合京城「ソ」聯總領事館閉鎖ヲ強要スルノ適否ノ二點ト認メラルル旨ヲ述ヘ意見ノ交換ニ入ル

右ノ結果大要左ノ方針ニテ進ムコト適當トスト言フニ一致

一、北樺太亞港總領事館ノ閉鎖ハ事實上我石炭利權事業ノ引揚ヲ餘儀無クスヘク此ノ結果必然「ソ」聯ノ利權沒收等ノコト起リ條約上ノ重要權益ノ潰滅ヲ招來シ「ソ」聯ノ日「ソ」基本條約及利權契約蹂躪ノ問題ヲ生スヘシ從テ亞港總領事館閉鎖問題ハ單ナル一領事館ノ閉鎖問題ニ非スシテ「ソ」聯ノ條約蹂躪ニ對抗シ我利權擁護ノ爲現地保護ノ手段ヲ講スヘキヤ否ヤノ問題ニシテ事重大ナルニ付此點ニ付早速軍側ニ於テ考究ニ入ルコト

一、曩ニ外務當局ヨリ「ソ」側ニ對シ北樺太ノ領事館ハ我利權事業保護ノ爲ニ必要ナルコトヲ力説シタルガ此際更ニ一步ヲ進メ亞港總領事館ノ閉鎖ハ現下ノ事態ニ鑑ミ必然石炭利權事業ノ休止ヲ伴ヒ日「ソ」基本條約ニ基ク我重要權益ノ潰滅ヲ來シ「ソ」聯ノ日「ソ」基本條約蹂躪行爲ニ導クモノナルコトヲ強調スルコト(後日亞港總領事館ノ引揚ヲ餘儀ナクセラルル場合ニ於テモ出來得レハ「ソ」側ヲシテ同地ニ利權保護ノ爲ノ我方交渉員ノ駐在ヲ認メシムル素地ヲ作り置クコト)

一、此ノ際速ニ在本邦通商代表部員ノ減員(具体的數字ハ研究ノ結果査定ノコト)ヲ要求スルコト

一、滿ヨリ哈爾賓「ソ」聯總領事館ノ減員ヲ「ソ」側ヘ要求スルヤウ手配スルコト

一、議會等ニ於テ「ソ」側ノ不當處置ヲ問題ニシ一般輿論ヲ通シ「ソ」聯ノ猛省ヲ促スコト但シ其ノ時機ハ關係廳ニ於テ適當見計フコト

一、我國ハ北鐵協定ニ基ク滿側ノ現金及物品拂ノ滞リナク行ハルルヤウ盡力スルコトヲ「ソ」聯ニ對シ約束シ居ルトコロ「ソ」聯ノ重大ナル條約蹂躪行爲ニ對シテハ我方ハ協定違反ヲ以テ報復シ得ヘキ關係ニアリ依テ來ル三月二十三日ノ北鐵代償金最終割賦金(五百九十八萬圓)ノ支拂ニ付テハ滿側ニ於テ北鐵債務代位弁済額、北鐵債權等ノ當然「ソ」聯ヨリ支拂ヲ受クヘキ金額ヲ控除シ支拂フコト又ハ右代位弁済額等ノ支拂問題ヲ「ソ」聯カ解決セサル間最終割賦金ノ支拂ヲ差控フルコトヲ實行スル希望ナルニ於テハ寧口進シテ之カ實行ヲ促シ「ソ」聯ヨリ我國ニ對シ協定上ノ支拂保障義務違反ヲ以テ抗議シ來ル場合ニハ「ソ」聯ノ日「ソ」基

本條約蹂躪ヲ指摘スルコト可然此點直ニ考究スルコト「ソ」側カ哈爾濱總領事館ノ閉鎖ヲ強要シ來ル場合報復的ニ我方ハ京城「ソ」聯總領事館ノ閉鎖ヲ強要スルト先般來考慮セラレ居ルトコロ右ハ爾余ノ領事館ノ閉鎖問題ニ關係アルニ付次回更ニ審議ヲ加フルコト

179

昭和13年3月12日

広田外務大臣より  
在滿州國植田大使宛(電報)

ソ連に対する牽制措置として在ハルビンソ連  
總領事館の館員数削減を申入れるよう滿州國  
へ依頼方訓令

第二五一號(極秘)

往電合第七七六號ニ關シ

本省 3月12日後7時発

「ソ」側ハ依然武市哈爾濱及北樺太ノ一館(恐ラク亞港)ノ閉鎖ヲ強要スル形勢ニ在ルヲ以テ之レニ對シ我方トシテハ在京城「ソ」聯總領事館ノ閉鎖ヲ仄カスト共ニ通商代表部員ノ減員ヲ要求シ又滿州國ノ北鐵代償金ノ支拂差控ヲ成行ニ任スノ態度ヲ執ル等ノ措置ニ出テ居ル處此際滿側ニ於テ

「ソ」側ノ苦痛トスヘキ在哈爾賓同國總領事館ノ問題ヲ提起スルハ相當ノ牽制トナルヘク我方トシテ極メテ望マシキ次第二ニテ又滿側ノ利益ニ合致スル處ト存スルニ付テハ鮮クトモ此際滿側ヨリ「ソ」側ニ對シ同總領事館ノ館員數ヲ滿側ニ於テ適當ト認ムル數迄一定期間内ニ減少方ノ要求ヲ提出スル様御配慮相煩ハシ度シ

180

昭和13年3月15日  
在ソ連邦重光大使、在滿州國植田大使  
他宛(電報)

日本側より閉鎖領事館の指定がない場合在ハ  
バロフスク領事館等三館の認可を取り消す旨  
在本邦ソ連大使示唆について

付記 昭和十三年三月十五日、欧垂局第一課作成

第二回領事館閉鎖問題対策各省間會議要旨

本省 3月15日午後2時30分發

合第八一七號

往電合第七七六號ニ關シ

十四日「ス」大使堀内次官ヲ來訪十日我方申入レニ對スル

「ソ」側ノ回答ナリトテ

二「ソ」政府ハ日本政府カ何レノ三館ヲ四月十五日迄(五日間延期シ來レリ)ニ閉鎖セントスルモノナリヤ示サン事ヲ再應要望ス若シ日本政府ニ於テ之レヲ示ササル場合ハ「ソ」政府ハ哈府、武市及「オハ」ニ於ケル日本領事ノ認可狀ヲ取消ササルヲ得サルト共ニ神戸、大連及小樽ノ三館ヲ閉鎖ス

三、通商代表部員減員ニ關スル日本側ノ要求ニ應シ差支無シ但シ此場合ハ日本領事館ノ館員數問題ニ觸レサルヲ得ス又日本政府ニ於テ通商代表部ノ閉鎖ヲ要求スル場合ハ「ソ」側ハ之レニモ應スル用意アルモ之レニ對シテハ四月十五日以後殘存スル日本領事館ノ閉鎖問題ヲ提起セサルヲ得ス

ト述ヘタリ右ニ對シ次官ハ我方從來ノ主張ヲ反復強調シ事態ノ重要性ヲ指摘シ先方ノ再考ヲ促シタル處「ス」ハ頻リ二本日ノ申入ハ「ソ」政府ノ名ニ於テ爲スモノナリト述べ居タル趣ナリ

本電宛先 莫斯科、新京、浦潮、哈府、亞港、武市、オハ

(付記)

領事館閉鎖問題ニ關スル件

昭和二三、三、一五

三月十五日歐亞局長主宰ノ下ニ領事館閉鎖問題對策ニ付第二回意見交換ヲ行フ

外務 井上歐亞局長、加瀬歐亞一課長、水野通商一

課長

燃料局 柳澤第二部長、畠中資源課長、榎本事務官

陸軍 早淵中佐

參謀 川俣課長、山本班長

海軍 岡軍務一課長、藤井中佐(軍務)、前田中佐(軍

需)

軍令 中瀬中佐

歐亞局長ヨリ領事館閉鎖問題ノ對策ニ付前回ニ引續キ更ニ根本的ニ考究シ度ク前回ノ意見交換後ノ交渉經過概要ヲ課長ヨリ報告セシムヘキ旨述ヘ加瀬課長ヨリ三月十日外務次官ヨリ「ソ」大使ニ對シ我方ハ「ブラゴウエ」一館ハ閉鎖差支ナキモ其他ハ何レモ必要トスル意向ニ變リナク殊ニ北樺太ノ領事館ハ何レモ利權事業保護ノ爲必要ニシテ萬一之カ閉鎖ヲ餘儀ナクセラルル如キ場合ニハ利權事業ノ引揚ヲ

招來シ其ノ結果ハ我條約上ノ重要權益ノ壞滅ニ導キ「ソ」聯ハ條約蹂躪ノ責ニ任セサルヘカラサル筋合ヲ説示シ同時ニ領事館問題ニ對スル「ソ」政府ノ態度ニ鑑ミ我方ハ在本邦「ソ」聯通商代表部員ノ數ヲ八名ニ減シ之ヲ四月中ニ實行セシコトヲ求メタルトコロ三月十四日「ソ」大使ハ外務次官ヲ來訪シ右我方申入ニ對スル「ソ」政府ノ回答ナリトテ「ソ」政府ハ我方カ來ル四月十五日迄ニ閉鎖スヘキ三館ノ所在地ヲ指摘センコトヲ求メ若シ指摘ナキ場合ハ四月十五日以後「ブラゴウエ」、哈府及「オハ」ノ三領事館ノ認可狀ヲ取消スヘキ旨竝ニ「ソ」政府ハ通商代表部員ヲ減員シ差支ナキモソノ場合ハ在「ソ」日本領事館ノ館員數ヲ問題トスヘク又我方カ通商代表部ノ引揚ヲ求ムルニ於テハ之ニ應スヘク但シ之ニ對シテハ四月十五日以後殘存スヘキ日本領事館ノ閉鎖問題ヲ提起セサルヲ得サル旨申出テタル次第ヲ報告シ意見ノ交換ニ入り

其ノ結果大体左ノ意見ニ一致セリ

一、北樺太油田ハ「ソ」側ノ非常ナル壓迫下ニ於テモ昨年

兔二角二十一萬噸(ソ)側ヨリノ購入ヲ含ム)ノ原油

ヲ内地ヘ搬出シ然モ「オハ」「エハビ」ノ産油ハ航空

揮發油、「デーゼル、エンジン」用油トシテソノ使用  
價値大ナルモノアリ若シ夫レ「ソ」側ノ壓迫ナキモノ  
トセハ近キ將來ニ於テ年ニ五十萬噸内外ノ原油ヲ内地  
ヘ搬入シ得ル見込アリタル等ノ事情ニ鑑ミ北樺太石油  
利權ハ帝國ニトリ眞ニ重要ナル權益ナリ

二、「オハ」領事館カ閉鎖ヲ餘儀ナクセラルル場合ハ左ナ  
キタニ「ソ」聯官憲ノ壓迫ノ爲苦境ニアル石油利權事  
業ハ到底事業ヲ繼續シ得スト申出ツルモノト認メラル  
三、而シテ領事館閉鎖問題ニ關スル「ソ」側從來ノ態度ニ  
鑑ミ此儘ニテ進メハ「オハ」領事館ノ職務執行ヲ四月  
十五日以後不能ナラシムルコトハ必至ノ形勢ト認メラ  
ルルニ付愈々以テ北樺太利權擁護ノ爲現地保護ノ決意  
ヲ固ムヘキヤ否ヤノ關頭ニ立テルモノト認メラル  
四、就テハ外務當局ニ於テ急速ニ今後ノ對策ヲ樹テ政府ノ  
態度決定ニ資スルコト

五、尙本件領事館閉鎖問題ニ付テハ未タ新聞等ニ發表ナキ  
トコロ此際輿論ヲ喚起シ「ソ」政府ノ反省ヲ促スコト  
可然ク假令大ナル效果ヲ期待シ得ストスルモ機宜ノ措  
置ナラスヤトモ認メラルルニ付外務當局ニ於テ其當否

二付考慮スルコト

181

昭和13年3月30日

広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使他宛(電報)

在本邦ソ連大使に対し在ブラゴヴェシチエン  
スクおよび在ベトロバブロフスク兩領事館閉  
鎖に同意方申入れについて

付記一 昭和十三年三月十九日、欧亜局第一課作成

第三回領事館閉鎖問題対策各省間會議要旨

二 昭和十三年三月二十六日、欧亜局第一課作成

第四回領事館閉鎖問題対策各省間會議を踏ま

えた方針案

三 昭和十三年三月二十八日、作成局課不明

第五回領事館閉鎖問題対策各省間會議を踏ま

えた方針案

本省 3月30日後4時30分發

合第九九七號

領事館問題ニ對スル我方ノ態度ハ屢次往電ニテ御承知ノ通  
リニシテ殊ニ北樺太利權ノ擁護ニ就テハ充分考慮ヲ加ヘ居

ル次第ナルカ此際ハ出來得ル限り外交折衝ニ依リ問題ノ落着ヲ附クル事適當ト認メ二十八日「ス」大使本大臣來訪ノ機會ニ本大臣ヨリ元來「ソ」政府ノ態度ハ當初ヨリ非常識極マルモノナルヲ以テ我方トシテハ「ソ」聯ノ要求ニ應シ難ク只獨自ノ立場ヨリ武市一館ノミハ閉鎖スルモ差支ナシト意思表示セル次第ナルカ本問題カ兩國間ニ禍根ヲ殘ス事無カラシムル意味ニ於テ我方ハ武市ノ外「ペトロ」ヲ閉鎖スル事ニ同意シ差支無シ但シ「ペトロ」閉鎖ニハ漁期中東京又ハ浦潮ヨリ領事ヲ勸察加ヘ派遣シ「ソ」側地方官憲トノ交渉及漁業關係事務ノ處理ニ當ラシムルコト即チ大正七年前ノ制度ニ復歸セシムル事ヲ必須條件トシ右二館閉鎖ニ依リ領事館問題ヲ解決スル事トシ度シト述ヘタル處「ス」ハ多少意外ノ面持ヲ示シ漁期中領事ヲ派遣スルトナレハ事實上「ペトロ」領事館存續ト同一ノ結果ニナルカ「ソ」政府ヘ請訓シ得ル様更ニ第三ノ閉鎖領事館ヲ指摘セラレン事ヲ望ムト答ヘタリ何レ「ス」ヨリ本國ヘ報告ノ上ハ更ニ何等申出ツルモノト認メラル

本電宛先　莫斯科、浦潮、哈府、亞港、オハ

(付記一)

領事館閉鎖問題ニ關スル件

昭和二三、三三、一九、

三月十九日歐亞局長主催ノ下ニ外、陸、海當局間ノ第三回意見交換ヲ行フ

外務　井上歐亞局長、加瀬歐亞局第一課長

陸軍　早淵中佐

參謀　川俣課長、甲谷少佐

海軍　藤井中佐

軍令　中瀬中佐

歐亞局長ヨリ前同意見交換ノ結果ニ基キ研究セル結果ヲ參考トシテ披露シ爲念別紙<sup>(省略)</sup>「ソ」聯ノ我カ領事館閉鎖要求ニ對スル研究ヲ閱覽ニ供シタル上意見交換ニ入レリ(各員ノ意見ヲ綜合スルニ概ネ左ノ如シ)

藤井中佐(海軍々務局)ヨリ

海軍側トシテハ北樺太ノ石油ハ必要ニシテ或ル程度ノ警備兵力ヲ用意スレハ石油利權事業保護ノ目的ヲ達シ得ルニアラスヤトノ判斷ニシテ又相當ノ警備兵力ハ用意シ得ル(參謀本部トモ話合濟ミノ由)尤モ右ハ警備ニシテ彈丸ヲ

打タヌ威嚇ナルモ之ヲ以テ本年季節中利權事業ノ繼續ニ必要ナル人員及物資ヲ送込ム途ハアルモノト考フ(最悪ノ場合ハ當該地域占領ニ迄發展スヘキヤ否ヤニ付テハ其處迄行カズトモ所期ノ目的ヲ達シ得ルモノト判斷ス)相當ノ警備兵力用意(警備艦ヲ出スコト等)ノ結果若干範圍ノ戰鬪ニナルヤ否ヤノ見透シハ付ケラレサルモ元來警備ニハ妥協點カアリ或ル限度以上ニ進ミタル場合ハ手控ヘ深入リセサルモノナリ右ハ海軍側ノ決意ナルカ此ノ決意ヲ承知サレタル外務省トシテハ如何ナル方針ニテ進ムヲ可トスル次第ナルヤヲ伺ヒ度シ

中瀬中佐(軍令部第七課々長代理、前駐「ソ」大使館付海軍武官)ヨリ

冬ハ「オハ」方面ハ結氷シ警備艦ヲ出スコトハ出來サルモ南樺太ニ或ル程度ノ兵力ヲ置ク等ノ方法ニ依リ間接ニ威壓ヲ加ヘ利權事業保護ニ資スルコトハ出來得ヘシ我方警備二件ヒ萬一打合ヒカ起ルトスルモ「ソ」側ハ局地的ニ解決ヲ付ケテ來ルモノト見テ差支ナシ「ソ」聯カ本腰ニ我方ニ衝突シ來ルトセハ北樺太「オハ」方面ノ如キ所テハヤラス彼等ノ準備ノ進ミ居ル大陸方面ニ於テ出テ來

ルコトト考フ

川俣大佐(參謀本部露西亞課長、前駐「ソ」大使館付陸軍武官)ヨリ

警備ニテ大体ノ目的ハ達シ得ルモノト考フ唯勸察加方面ト北樺太方面トハ警備上二ツノ點ノ相違ヲ考慮スルコト然ルヘシ即チ北樺太ノ方ハ陸上ノ事業保護ノ關係上事態擴大ノ公算アルコト及北樺太ニハ「ソ」聯飛行機カアルコトナリ先方ヨリ「パチパチ」ヤルコトナシトハ保シ難ク從テ勢ノ趨ク所如何ニナルヤモ計ラズト言フコトヲ考ヘテ警備ヲナス要アリ但シ何レニセヨ之カ爲メ日「ソ」戰爭ニナルト考フルハ大袈裟ナリ

トノ言明アリ此ノ間歐亞局長ト藤井中佐トノ間二種々質問應答アリタル後

歐亞局長ヨリ

本日本海、陸軍ヨリ承リタル所ニ依リ差當リ本年季節間ノ利權保護ニ付何處迄ヤレルカト云フコトカ明瞭トナリタルニ依リ之ヲ肚ニ持チツツ此ノ迫力ヲ以テ外交々涉ヲ行ヒ其ノ結果ノ事態ニ對シテハ更ニ改メテ對策方針ヲ考慮スルコトニ致シ度ク就テハ外務當局トシテ研究ノ結果到

達セル對策方針ニ付意見ヲ伺ヒ度シ

トテ別紙第三段ヨリ成ル對策方針案ヲ披露セリ

一同右ニ異存ナク仍テ速ニ此ノ方針ニテ進ムコトニ付各關係廳ニ於テ上司ノ決裁ヲ仰クコトニ一決セリ

尙歐亞局長、川俣大佐ノ間ニ意見交換ノ結果在京城「ソ」聯總領事館閉鎖強要方ノ件ハ現在問題トナリ居ル三館以外ノ領事館トノ關係モアリ旁々今後ノ日「ソ」間交渉ノ推移ヲ見テ再考スルコトトシ一同之ニ異議ナカリキ

編注 別紙は省略するが、三段の方針とは以下のとおり。

「第一段」「ソ」政府ニ對シ左ノ對案ヲ出スコト

兩國ノ關係ヲ可成正常ノ状態ニ歸サムコトヲ希望シ從テ領事館問題モ領事館問題トシテ速ニ落着ヲ希望スルニ付此際實際的ニ問題ノ落着ヲ計ルコトトシ此ノ見地ヨリ我方ハ茲ニ「ブラゴエ」及「ペトロ」ノ二館ヲ指摘ス但シ毎年漁期中外務本省又ハ在「ソ」領事館ヨリ「ペトロ」及「カムチャツカ」東、西兩岸ニ出張シ例ヘハ借下條件ノ解釋問題等發生ノ場合現地官憲ト話合ヒ解決ヲ計リ得ルモノトス右ハ「ペトロ」ニ我領事館

ノ開設セラレタル大正七年前ノ慣行ニ照ラスモ當然ノコトナリ

第二段

右第一段ノ對案ニ對シ「ソ」側カ依然三館ノ指摘ヲ求メ來ル場合ニ於テハ左ノ對案ヲ出スコト

我方ハ「ブラゴエ」、哈府、「ペトロ」ノ三館ヲ指摘ス而シテ漁期中「ペトロ」及「カムチャツカ」東、西兩岸ハ外務本省又ハ在「ソ」領事館ヨリ出張シ現地官憲ト話合ヒ得ルモノトス

第三段

右第一段ノ對案ニ對シ「ソ」側カ依然三館ノ指定ヲ求ムルト共ニ「ペトロ」領事館閉鎖後ニ於テハ「カムチャツカ」ノ出張ヲ認メ難シト回答シ來ル場合ニ於テハ左ノ對案ヲ出スコト

我方ハ「ペトロ」ヲ撤回シ「ブラゴエ」、哈府、亞港ノ三館ヲ指摘ス

(付記二)

領事館閉鎖問題ニ關スル件

## 昭、一三、三、二六

一、三月二十四日ノ關係廳間第四回意見交換ノ結果外務上司ノ意向ニ基キ此ノ際ハ出來得ル限り外交折衝ニヨリ問題ノ解決ヲ計ルコトトシ「ソ」聯ノ申出ニ對シ對案ヲ提出スル爲ソノ内容ヲ考究スルコトトナリタル次第ナルカ、（「ソ」側ニ於テハ我方ヨリ來ル四月十五日迄ニ閉鎖スル領事館三個ヲ指摘アリ度ク右指摘ナキ場合ハ「ブラゴエ」、哈府、「オハ」ノ三領事館ノ職務執行ヲ否認スヘシト申出テ居レリ）外務省トシテハ結局我方ヨリ三館ヲ指摘スル羽目トナリタル場合ハ右三館ヲ「ブラゴエ」、哈府及「ペトロ」（又ハ亞港）トナスコト諸般ノ關係上最モ穩當ナルヘシトノ案ニ到達セリ

然ルトコロ右ノ内哈府ニ關シテハ第四回意見交換ノ際參謀本部川俣大佐ヨリ參謀本部第二部トシテハ出來ル丈ケハ哈府ヲ存置シ度ク先方カ無理ニ同館ヲ閉ヂ來ル場合ハ兎モ角、我方ヨリ之ヲ「ソ」側ニ指摘スルコトニハ強キ反對アリ寧ロ「ブラゴエ」、亞港、「ペトロ」ノ三館ヲ指摘スルヲ可トストノ意見ヲ表示セリ、右參謀本部第二部ノ哈府ニ對スル執着ハ「ソ」聯ノ對日戰爭準備狀況偵知ニ

重キヲ置ク當局ノ考トシテ外務省トシテモヨク了解セラルルトコロニシテ現下ノ對「ソ」關係上當省トシテモ出來得ル限りノ協力ヲ與フヘキモノト思料セラレ、本件哈府總領事館ノ閉鎖指摘ヲニ付陸軍側ヲ納得セシムル爲ニハ同館引揚後ハ極東情勢偵知上ノ欠陥ヲ幾分ニテモ補フ爲メ協力シ得ヘキコトハ當省トシテ之ヲ爲スヘキ用意アルコトヲ明ニスルヲ得策ト認メ、三月二十五日井上歐亞局長ヨリ參謀本部本間第二部長ニ對シ右ノ趣旨ヲ以テ懇談スル所アリ（加瀨歐亞一課長、川俣參謀本部露西亞課長列席セリ）右ノ結果三月二十六日陸軍省軍務局早淵中佐ヨリ、參謀本部ニ於テハ此ノ際我方ヨリ三館ヲ指摘スル場合哈府ヲ之ニ入ルコトニ對スル從來ノ異議ヲ撤回ス但シ哈府引揚後ハ情勢偵知上ノ欠陥ヲ幾分ニテモ補フ爲メ

(一) 浦潮總領事館ニ特殊勤務者ヲ一名増員シ右ヲ副領事トセラレ度ク若シ「ソ」側ニ於テ副領事（現在副領事一名在勤ス）ヲ二名トスルコトニ異議ヲ挿ム場合（査證ヲ拒絶スル場合）ハ現存副領事ニ特殊勤務者ヲ充テラレ度シ

(二)「クーリエ」ニ付或時期ニ軍側ニ於テ是非人員ヲ派シテ視察セシメ度シト認ムル場合(昨年秋ニ一回斯ル例アリタリ)外務側ノ「クーリエ」ノ番号軍側ニ割愛セラレ度シ

(三)萬一哈府閉鎖ノ結果「ソ」側カ我方「クーリエ」ノ浦潮經由ヲ拒否シ來ルカ如キ場合ハ極力之カ復舊ニ盡力アリ度シ

トノ希望條件ヲ提示シ來ルト共ニ右案ニテ陸軍省上司迄通シ改メテ通知致スヘキカ大体右參謀本部案ニテ纏マルモノト考フルニ付不取敢知ラスル旨電話アリタリ(右)  
ニ付テ實行困難ノ點アルコトハ當省係官ヨリ川俣大佐及早淵中佐へ話シ置キタルカ參謀本部トシテハ在「ソ」帝國領事館書記生ハ外交旅券ヲ給セラレス爲ニ旅行ニ際シ種々ノ不都合アルニ付是非右ヲ實現シ度キ相當強キ希望ヲ有スルモノト認メラレタリ)

(付記二)

領事館閉鎖問題ニ關スル件

昭一三、三、二八

三月二十六日ノ關係廳間第五回意見交換ノ結果先ツ第一段ニ「ブラゴエ」及「ペトロ」ヲ指摘シ但シ「ペトロ」ニ付テハ漁季中領事館員ノ出張ヲ認メシムルコト可然シトノコトニ意見一致シタルニ付テハ右「ペトロ」ヲ「ソ」側ニ提案前篤ト農林當局ノ了解ヲ得置ク要アルニ付三月二十八日歐亞局長室ニ三宅水産局長、藤田監督課長ノ參集ヲ求メ井上歐亞局長ヨリ「ソ」側へ對案トシテ先ツ第一段ニ「ブラゴエ」及「ペトロ」ヲ指摘スルコトト致度キ内輪ノ事情ヲ詳細話合アリ農林當局ニ於テモ之ヲ諒承セリ

~~~~~

182 昭和13年4月10日 在ブラゴヴェシチエンスク下村(未郎)領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

現地外務代表ヨリ在ブラゴヴェシチエンスク領事代理に対し四月十五日を期限とする同館の閉鎖に關し通報について

ブラゴヴェシチエンスク 4月10日後發  
本 省 4月10日夜着

第二三號

十日外務代表本官ヲ來訪シ武市日本領事館ハ兩國政府ノ協

第一八號

定ニ依リ四月十五日限り閉鎖スルコト相成リ居ルニ付閉鎖ニ關シテハ便宜供與方莫斯科ヨリ指令アリタリト申述ヘタルヲ以テ協定不成立ノ事情ヲ強調シ領事館閉鎖問題ハ蘇政府ノ發意的提議ニシテ日本政府ハ之ニ同意シ居ラスト反駁セルニ四月十五日以後ハ現地官憲ニ於テ領事館ノ「フアソクシヨソ」ヲ認メサル旨通告方同様指令ニ接シ居レリト答ヘタルニ依リ然ラハ當館モ「オデツサ」、「ノヴォ」同様蘇政府ノ強要ニ依リ閉鎖ノ餘儀ナキニ至ルヘク其ノ際ハ改メテ具體的ニ便宜供與方申出ツルコトアルヘキ旨應酬シ置ケリ

蘇、浦潮、哈府へ轉電セリ

183 昭和13年4月10日 在ハバロフスク島田(滋)総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

現地外務代表より在ハバロフスク総領事に対し  
四月十五日を期限とし同館閉鎖方要求について

ハバロフスク 4月10日後發  
本 省 4月10日夜着

十日當地外務全權代理ヨリ口頭ニテ十五日ヲ限り當館ノ閉鎖ヲ求ムル旨通知アリタリ  
蘇へ轉電セリ

184 昭和13年4月14日 広田外務大臣より  
在ソ連邦重光大使他宛(電報)

在ブラゴヴェシチェンスクおよび在ハバロフ  
スク領事館閉鎖通告の撤回は不可能であると  
する在本邦ソ連大使館参事官申入れについて

本省 4月14日後9時20分發

合第一一七八號(至急)

十四日「ス」参事官井上局長ヲ來訪「ソ」側トシテハ十一日局長ヨリ在武市及哈府領事館閉鎖通知撤回方要求セラレタルヲ意外トスルモノニシテ「ソ」政府ハ在「オハ」領事館ノ閉鎖ヲ延期スル事ニハ同意ナルモ在武市及哈府二館ノ閉鎖ハ停止スル能ハスハ在神戸及小樽ノ自國領事館ハ既ニ閉鎖セリト述ヘタルヲ以テ局長ハ四日大臣ト會談ノ際「ス」大使ハ「オハ」ノ閉鎖要求ヲ撤回スト云ヒタルニ今日貴官カ同館ノ閉鎖延期ニ同意ス云々ト云ハルハ不可解ニシテ

又領事館問題ハ他ノ諸懸案ト一括解決ノ爲メ目下話合中ナルニ不拘在武市及哈府領事館ニ對シ四月十五日限り閉鎖ヲ要求シ來リタルハ事態ヲ益々悪化スルモノニシテ誠ニ遺憾ニ不堪我方カ兩國間ノ諸懸案ヲ解決シ國交ヲ調整スル見地ヨリ種々盡力シ居ルニ不拘「ソ」側カ右ノ如キ態度ヲ執ララルノ結果カ如何ニ重大ナルヘキカハ特ニ考慮ヲ要求スル次第二テ武市及哈府二館ノ閉鎖通知ヲ撤回セラレ度シト強キ態度ヲ以テ要望シタル處「ス」ハ本日ノ申入レハ「ソ」政府ノ決定ナルカ御申出ノ次第ハ大使及莫斯科ヘ報告スヘシト約シタル趣ナリ

本電宛先 莫斯科、浦潮、哈府、亞港、武市、オハ

185 昭和13年8月4日  
在ブラゴヴェシチエンスク下村領事代  
理より  
宇垣外務大臣宛(電報)

ソ連側からの二晝夜以内の退去通告を踏まえ  
今後の処置につき請訓

ブラゴヴェシチエンスク 8月4日後發  
本省 8月5日前着

第三八號(大至急)

本四日午後五時内務人民委員部民警署ヨリ人ヲ派シ書面ヲ以テ本官ニ對シ六時迄ニ同署ヘ出頭方通告シ來リタルモ受理セズ外務代表經由送付アリタキ旨傳ヘ歸ラシメタル處折返シ外務代表ヨリ二晝夜以内ニ離「ブ」浦潮經由出國方貴官ニ提言スヘキ旨蘇政府ヨリ現地官憲ニ指令アリタル趣電話越シ尙離「ブ」ニ際シテハ便宜供與方附言セリ  
依テ本官ハ參考迄ニ聞キ置クヘキモノ應本省ヘ請訓スヘキ旨應酬セル處二晝夜ハ最終的期限ナル旨念ヲ押セリ  
本官ノ執ルヘキ處置ニ關シ何分ノ儀御回電請フ  
莫斯科、哈府、浦潮、滿ヘ轉電セリ

186 昭和13年8月5日  
宇垣外務大臣より  
在滿州國植田大使宛(電報)

引揚げに際してはその原因がソ連官憲の圧迫  
にありと通告の上退去するよう在ブラゴヴェ  
シチエンスク領事に指示伝達方訓令

第八五四號(大至急)  
本省 8月5日前11時50分發

武市發本大臣宛電報第三八號及第三九號ニ關シ

在武市滿洲國領事館經由下村領事代理ニ對シ昨年「ノヴオ」等ノ例ニ準シ「ソ」側ノ壓迫加ハリ職務執行及在留甚タ困難トナリタル場合ハ何時ニテモ引揚ケラレ差支ナキ旨傳達方大至急御取計相成度

但引揚ニ當ツテハ日本政府ハ領事館問題ニ付從來ノ主張ヲ堅持スルモノニシテ「ソ」側ノ一方的退去要求ハ認ムルコト能ハサルモ「ソ」側官憲ノ行動ノ爲職務執行不可能トナリタル爲已ムヲ得ス引揚クル旨下村ヨリ書面通告シ置ク様附言セラレ度

蘇、浦潮ニ轉電セリ

187 昭和13年8月5日 在ウラジオストク七田總領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

在ハバロフスク總領事館退去の経緯について

ウラジオストク 8月5日前発  
本 省 8月5日夜着

第二二九號

(1) 三日夜哈府發五日(七時間延着)當地ニ到着セル石油代表吉田ニ島田總領事ノ託セル同館立退要求経緯左ノ通り

一、二日午後四時外交代表ノ電話ニ應シ島田總領事出頭セル處外交代表「バラノフ」ハ「ペトロフ」ナル者(中央ヨリノ派遣員ノ趣ニテ代表ヨリ上席ノ如シ)ト同席ノ上内務人民委員部ノ命ニ依リ貴館員(支那人ヲ含ム)ニ對シ四十八時間以内ニ立退ヲ要求ス旅行諸準備ニ付テハ便宜供與スヘキニ付直ニ打合ヲ遂ケラレ度シト通告セルニ付島田總領事ハ理由明示ヲ求メ且詰問ノ必要アルニ付一回限り暗號ノ使用方要求セルモ何レモ應セス又四十八時間トハ短キニ過クト詰レルニ貴館ノ引揚ハ四月十五日以來ノ事項ナリト答ヘ其ノ儘物別トナレリ

二、同日十一時頃本省、莫斯科、浦潮へ平文ニテ打電セントセル處受理セス又哈府浦潮間電話モ不通ナリキ

三、(2) 三日市「ソビエト」議長ノ委任狀ヲ携帯セル一蘇人電燈、水道、電話等ノ料金ノ清算ヲ要求シ又同日出國査證取付ノ爲民警署へ出頭セル支那人使用人ハ新疆省行ノ査證ニアラサレハ下付セサル趣言渡サレタリ

尙家主ハ一日ニ納入セル八月分家賃ヲ返還シ來リ且四日午後七時迄ニ家屋明渡方要求シ來レリ

四、同日午後四時總領事ハ外交代表ニ對シ其ノ權限ヲ楯トシ

支那使用人ノ浦潮經由査證方ヲ要求セルニ右ハ支那領事ノ管轄事項ナルニ付如何トモ取計ヒ難シ貴館員ノ旅券ハ査證ノ爲早速送付越サレ度シト答ヘタルヲ以テ已ムナク四日午後十時二十分發列車ニテ引揚方同意ヲ與ヘ先方ハ馬車五臺、労働者四名、有蓋及無蓋貨車各一輛竝ニ乗車切符提供方約セリ

尙島田總領事外家族五名ト共二五日午後十時當地着ノ豫定ナリ

蘇へ轉電セリ

188

昭和13年8月6日

宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使、在滿州国植田大使  
他宛(電報)

わが方領事の自由および安全が脅かされた場合には報復的措施を執らざるを得ずとの在本邦ソ連代理大使への申入れについて

本省 8月6日前1時20分發

合第二四八四號

五日堀内次官「スメターニン」代理大使ヲ招致シ領事館問題ハ今尙交渉中ナルニ不拘武市「ソ」官憲カ四日一方的ニ

在内地帝國領事ノ引揚ヲ強要シ而カモ四十八時間内ノ出國、出國誓約書ノ署名及警察ヘノ出頭等ヲ要求シ來レルカ如キハ國際慣例ニ反スル前代未聞ノ不都合ナル措置ニシテ之レニ對シ我方ハ強硬ニ抗議セサルヲ得ス又「ソ」側カ帝國領事官憲ノ自由及安全ニ對シ不都合ナル措置ヲ執ラハ我方モ報復的措施ヲ執ラサルヲ得サルヘシ右ノ次第莫斯科へ至急傳達アリ度シト述ヘタル處「ス」ハ日本側カ報復的措施ヲ執ルヘシト言フ事ハ本國政府へ報告スヘシト答ヘタル趣ナリ

189

昭和13年8月8日

在滿州国植田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

ソ連側より在ブラゴヴェシチェンスク領事に對し国外退去の通告について

新京 8月8日前發  
本省 8月8日後着

第五六七號(至急)

往電第五六四號ニ關シ

武市滿洲國領事來電(八月五日午前十一時四十六分發七日

午前二時七分着)

下村領事代理ヨリ外務大臣へ左ノ通り

八月五日午後「ゲイ・ペー・ウー」<sup>(四)</sup>長官本領事館ニ來邸シ

決定ニ基キ本日午後五時ヨリ起算シテ四十八時間以内ニ當地ヲ退去スヘキ旨ヲ再聲明ス

日本領事館家屋ハ五日接收方手續ヲ了ス(現在手續中)館員一同六日午後一時武市發列車ニテ離武シ八月十日迄ニ蘇聯ヲ退去セラレ度シ切符及荷物等ノ輸送ハ蘇側ニテ手配致スヘキニ付至急査證方手配アリ度シ

領事館家屋ハ館員出發後直ニ封印スヘキモ殘置館用品ニ對スル保管ノ責ニハ任セス等通告シ立去レリ

事態斯クノ如クナリタル以上最早先方ノ爲ス儘ニ委ス外ナシト思料セラルルニ付明六日武市出發ノコトトモナレハ館用備品ノ大部分ハ殘置スルノ外ナキニ付豫メ御了承ヲ請フ

190 昭和13年8月9日 宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

二領事館への閉鎖要求に関シソ連側へ嚴重抗議方訓令

第四七九號

浦潮發本大臣宛電報第二二九號ニ關シ

哈府總領事館ニ對スル「ソ」側ノ仕打ハ甚夕不都合ニ付往電合第二二五六號ノ通八日井上局長ヨリ「スメタニン」ニ抗議セシメ置キタルカ貴方ニ於テモ武市ノ閉鎖要求ト合セテ適當ノ機ニ嚴重抗議相成度

尙報復措置ニ付テハ考慮中ナルモ目下ノ時局ニモ鑑ミ相當慎重ヲ要スト思料セラルルニ付差當リハ齒牙ニ掛ケサル態度ヲ執ル意嚮ナリ  
浦潮へ轉電セリ

191 昭和13年8月22日 宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛(電報)

領事館閉鎖問題経緯の公表について

別電 昭和十三年八月二十二日發宇垣外務大臣より  
在ソ連邦重光大使宛合第二六六〇号  
右公表文

本省 8月9日後4時發

本省 8月22日後8時40分發

合第二六五九號

在哈府及「ブラゴエ」領事館館員ニ對スル「ソ」側ノ強制  
出國要求問題ハ當時張鼓峯事件中ニシテ之カ國民一般ニ與  
フル刺戟ヲ慮リ新聞掲載禁止中ナリシ處二十二日之ヲ解除  
シ別電ノ通り情報部發表ヲ爲セリ。

本電宛先 蘇、浦潮、「オハ」、亞港、ペトロ

(別電)

本省 8月22日後8時10分發

合第二六六〇號

豫々「ソ」聯側ハ自方カ神戸及小樽ノ二領事館ヲ閉鎖セル  
ニ付所謂同數主義ナルモノニ依リ在哈府及「ブラゴエシ  
チエンスク」ノ日本領事館閉鎖ヲ要求シ來リ兩國政府間ニ  
交渉中テアツタニ拘ラス「ソ」側ハ去ル四月十五日以後在  
哈府及「ブラゴエシチエンスク」二領事館ノ職務執行ヲ  
困難ナラシメテ居タカ八月上旬右兩領事館館員ニ對シ急遽  
閉鎖ノ上出國センコトヲ強要シ職務ノ執行並ニ居住ヲ實際  
上不可能ナラシムルニ至ツタノテ兩領事館館員ハ已ムナク  
兩地ヲ一時引揚ケ十三日歸國シタ

右「ソ」側ノ不法ナル措置ニ對シテハ當時直ニ東京及「モ  
スコ」ニ於テ嚴重抗議シ引續キ「ソ」側ノ是正ヲ促シテ  
居ルノテアル

~~~~~

192 昭和13年9月11日 在ソ連邦重光大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

領事館閉鎖の強要は協定違反であるとす日  
本側抗議申入れとソ連側拒絶について

モスクワ 9月11日後發

本省 9月12日前着

第一三四二號

貴電第四七九號ニ關シ(哈府及武市領事館引揚ニ關スル件)  
八月廿六日附「ノート」ヲ以テ外務部ニ對シ蘇官憲カ兩領  
事館引揚強要ノ爲行ヘル壓迫ノ事實ヲ述ヘタル後領事館問  
題ハ兩國政府間ニ交渉中ナリシニ拘ラス今回蘇側ノ執レル  
右措置ハ領事官ノ身分ニ關スル國際慣例ヲ無視スル不都合  
ナル措置ナルト共ニ日蘇間現行協定タル一九二五年ノ交換  
公文ニ違反セル不法行爲ナルコト、帝國政府ハ領事館問題  
ニ關シテ其ノ從來ノ主張ヲ堅持スルモノニシテ蘇側ノ退去

## 1 日ソ諸案件交渉

要求ヲ承認セルモノニアラサルコトヲ述へ嚴重抗議セリ  
右ニ對シ外務部ヨリ八日附「ノート」ヲ以テ回答シ來レル  
カ其ノ要旨ハ「ス」大使ハ二月十日堀内次官ニ對シ平等及  
相互主義ニ基キ三領事館閉鎖ヲ申出テ日本政府ノ右閉鎖ヲ  
期待スル旨聲明セルモ日本政府ハ右ニ反對ナリシヲ以テ更  
ニ三月二日右提案ヲ繰返スト共ニ現存六館中何レノ三館ヲ  
閉鎖スルヤ明示方ヲ求メ且一國カ他國內ニ代表機關ヲ有セ  
ンカ爲ニハ相手國ノ同意ヲ要スル旨繰返シ指摘セリ

其ノ後交渉意ノ如ク進マス且日本政府カ「ス」大使ノ聲明  
ヨリ歸納スヘカリシ當然ノ結論ヲ爲スコトヲ回避シタル爲  
蘇側ハ四月十日兩地領事ニ對シ一定ノ期限以後ハ領事館ト  
シテ認メサル旨通告シ且其ノ後ノ日本側ノ交渉再開ノ希望  
ニ對シテハ其ノ決定カ動カスヘカラサルモノニシテ爾後ノ  
交渉ハ無益ナルコトヲ主張シ來リタリ故ニ日本側ノ領事館  
閉鎖ノ瞬間ニ至ル迄本問題カ引續キ交渉中ニ屬ストノ主張  
ハ事實ニアラス但シ在「オハ」、在亞港兩領事館及在大連  
蘇聯領事館ノ閉鎖問題ニ關シテハ多少異ナル狀態ノ下ニア  
リ本件ハ事實上交渉問題ニ屬ス依テ日本側抗議ヲ拒絕スト  
言フニアリ委細郵報